

伝習館



東京同窓会会報

第5号 2005.1.1



平成16年度伝習館東京同窓会総会結果報告
ウォーキングの効用
そろそろ「ホールインワン」保険？

ふるさと瓦版
昭和ひとけた生まれの戦中記

第5号 2005.1.1

東京同窓会本部より

平成16年度伝習館東京同窓会総会結果報告・・会長 江崎正直	1	
伝習館東京同窓会総会に於ける特別講演「高く遠い夢」三浦雄一郎	2	
ミニコンサート コール・シオン	6	
賛助物産の一部紹介	6	
総会収支報告書	7	
賛助金ご協力状況報告	8	
賛助金振込票通信欄コメント紹介	9	
東京に輝ける三稜の星たち	副会長 松永 肅	11

先輩・後輩より

ウオーキングの効用	高3 高椋重夫	13
そろそろ「ホールインワン保険」?	高9 橋本忠彦	14
定年ボランティア奮闘記 ーギリシャあれこれ(四)ー	高6 岡田哲也	15

学年幹事より

高14回ミニ同期会開催	高14 石橋俊一	17
高6回卒(昭和30年卒)三稜会のお知らせ	高6 石橋 修	17

ふるさと瓦版

清水寺三重塔	18
伝習館高校大運動会	18
メダカとカダヤシ	18
平川さんインターハイで銅メダル	19
有明の潮の香りもいっしょにブレンド	19
カササギ生息地	19
琴奨菊が十両昇進	20
三瀧町の民話・伝説	20
二度の挫折をのりこえて	21
白秋生誕百二十年記念事業	21
市史抄片 ～編さんだより(119)～	22
柳川出身の演歌歌手誕生!!	22
新刊紹介	23

昭和ひとけた生まれの戦中記

昭和ひとけた生まれの戦中記	24
募集	29
編集後記	29

表紙

題字は母校伝習館に掲出してある創立者立花鑑賢公の書の扁額の文字を、会長の江崎正直氏(高2)が臨書したもの。

絵(きじ車)

飯塚理恵子 略歴

一九六四年 東京都生まれ。女子美術大学洋画科卒業。
卒業後、玩具会社の企画デザイナーとして入社。結婚により退社。
結婚までの本籍は、福岡県山門郡三橋町藤吉五三〇番地の九
〔中56回卒 成清良孝氏 息女〕

伝習館



東京同窓会
会報

東京同窓会本部より

平成16年度伝習館東京同窓会総会結果報告

— 会長報告 —

温かい目を同窓会に

会長 江崎正直

同じ学び舎に学んだ縁を大切にして、老いも若きも助け合うのが同窓会であります。私はこの親子孫にわたる同窓会の運営に当たり、求心力を働かせるには会報発行が最良と信じて、二年前、会長就任以来、関係者のご協力を得て年に二回発行してきました。

今回の総会に当たっては、会報第四号と一緒に総会案内状を差し上げましたので、私は従来にない多数の皆様のご参加を期待しておりました。ところが六月二十七総会の出席者は一八四名で前回は下回りました。その上、今回の特徴は無回答（返信なし）の激増であります。東京同窓会員二三五一名へ案内状を出したのに、無回答が一七六四名、七十五%にもものぼったのです。この十年間、無回答は四〇%台で、前回は五十六%でしたが、今回は一挙に七十五%にはねあがってしまい、役員一同驚くとともに失望しております。

これまでは総会案内状のみ郵送していたのですが、郵送費節約のため今回は宅配便を使い、会報と総会案内状を同封しました。このため総会案内状を見逃した方があったのではないかとこの意見もありますが、それにしても四人に三人が無回答とは理解に苦しむところです。

次の課題としては賛助金の納入が次第に減ってきていることであります。会報発行には印刷と発送費は絶対に必要です。原稿と編集は関係者のボランティア精神に甘えています。会報は年二回発行で進めておりますが、発行費用は一回百万円ですから、二回発行しますと二百万円必要になります。

現在、学年幹事が出ている学年は三十三学年ですから、一学年で六万円出していれば二百万円となり、年二回の発行が可能となります。学年幹事の皆さんは率先して出していただくとともに、同級の皆さんへ呼びかけて、一人でも多くの方に醸金していただきたい。

会報を発行することにより皆さん方の同窓会離れを招くとは常識では考えられません。この実態を謙虚に受け止めていただいて、同窓会発展に向けて皆様方のご協力をお願いする次第です。

平成16年3月進路実績

国立大学等合格者

■主な合格先

北海道大学	1	九州大学	27
茨城大学	1	九州工業大学	5
埼玉大学	1	福岡教育大学	4
東京外国語大学	2	佐賀大学	24
東京工業大学	1	長崎大学	18
一橋大学	1	熊本大学	12
横浜国立大学	2	大分大学	2
金沢大学	1	宮崎大学	3
名古屋大学	1	鹿児島大学	7
京都大学	2	琉球大学	2
神戸大学	1	北九州市立大学	9
島根大学	1	福岡県立大学	1
広島大学	3	防衛大学校	7
山口大学	4		

私立大学合格者

■主な合格先

青山学院大学	4
慶應義塾大学	4
北里大学	2
中央大学	12
東京農業大学	1
東京理科大学	12
日本大学	3
法政大学	8
明治大学	8
早稲田大学	8
同志社大学	21
立命館大学	52
関西大学	4
西南学院大学	62
福岡大学	125
筑紫女学園大学	13
中村学園大学	8
久留米大学	24

公務員

■主な合格先

参議院衛視	1
福岡県職員	1
大川市職員(消防)	1
瀬高町職員	1



高く遠い夢……

七〇歳エベレスト登頂

三浦雄一郎

平成十六年六月二十七日

伝習館東京同窓会総会に於ける

特別講演より

要約文責——小野斜庵

皆さん今日は。もう一年ちよつとになります。去年（二〇〇三年）の五月二十二日時間は十二時十分地球上で一番高い地点に非常に短い足で立つことが出来ました。

今回また千鳥屋さんの奥様（原田副会長のこと）とのご縁ですが、奥様には随分お世話になりました。美味しい千鳥屋の饅頭を沢山作って頂きまして、それこそ山ほどエベレストへ、カステラも含めて持って行きました。やっぱり、山で高いところでも何日もずーっとずーっと苦しいキャラバンなどの日々が続きますと、甘いものというのは何よりでございます。甘いものというのは何よりでございます。そのおかげでまた馬力もついたというところで、非常に感謝しております。

一念発起

七〇歳でエベレストに登ろうと思ったのは六十五歳位。この頃にもうスタートしないといつまで経っても、一生エベレストには登れないのじゃないかと思いましたが、人それぞれ夢がありながら、これ出来たら最高じゃないかと思いつきながら、なかなか最初の一步が踏み出せないという、そんな時期があります。

六十歳の頃には僕は本当にエベレストに行ってみたくて密かに思っていたんですが、それじゃどうすればいいんだと……トレーニングの大変さ、おまけに死ぬかもしれないという思い、出来ない理由をずーっと一生懸命並べて、危険・困難も含めて……そうすると安心して、もういいのかと。

札幌に住んで呑気にスキーやったりゴルフやったり海外旅行行ったり余生を楽しまう。同窓会に出ると六〇歳の定年だ引退だ、リタイヤだ、やれ孫の話だ、あつち痛いこつち痛い、中に気の早い奴なんか老人ホームどうするんだと。いやーそんな歳になったのかと思っております。もうほんとに滑って転んで、良く生き延びたと、そんな仕事ばかりずーつとしておりましたので、もうそろそろ呑気に過ごそうかという考えもありました。

ところが、私の親父三浦敬三といいますが、今年（二〇〇四年）二月十五日で一〇〇歳を超えました。まだ元気で、つい三週間程前にも日本アルプスの立山で

スキーをやりました。五月の連休までは八甲田山、その前は札幌で、そしてアメリカでとスキーをやっておりました。この父親が去年（二〇〇三年）九十九歳の白寿記念でスイスのモンブランを滑るんだと、ヨーロッパの一番高い山、四〇〇〇メートルから大きなバレーブランシュという氷河があります。それに向かつて一生懸命トレーニングしている。山へ登っている。

そして今回一緒に行った息子の豪太がオリンピックに2回出ました。その後又ワールドカップスキーで世界選手権と、一生懸命トレーニングやっています。

僕はこの二人の間に挟まれました、その頃札幌の良さにどっぷり浸り込み、ビールだ焼肉だジギスカンだ、飲み放題だ、食べ放題だ。当時は二八五〇円。あつという間に身長一六四センチが体重八十五キロ超、体脂肪が四〇位とお金かけて立派なデブに変身して、もう階段登るのも面倒くさい、という状態でした。只、この二人の間に挟まれ刺激されて、オレは単なるデブで終わっていいのか、という反省はしきりにあつたんです。

先ずやみくもに、ようし、七十歳を目標にエベレスト登頂と一念発起しました。

現状認識

とはいえ太ってしまったって、高脂血症、糖尿病寸前。血圧も一六〇／九五位と高血圧症の仲間入り。成人病からエベレストと随分な飛躍ですけれども、ただずー

つと山をさぼっていたものですから、どの位の山を登る力、脚力が残っているかということ、うちのすぐ裏の藻岩山（札幌・531メートル）へとりあえず登ってみようと、ただ五〇〇メートルの岡ですから、空身じゃ意味ないということ、カビの生えた登山靴で背中に十五キロ背負って登りはじめました。

中略

ただ、色々調べてみましたら、エベレストの頂上へ登った人のうち、五人に一人は死ぬ。そしてベースキャンプを出て頂上へ登るまでに七人に一人は死んでいる（死亡率十四％）という世界です。

オレ流トレーニングの決意

そうするとこれから五年、一生懸命トレーニングしても、先ず登頂する確率は（割合良いんですけれども）三〇％、十人行っても三人しか登頂できない。登れないかもしれない、死ぬかも知れない。となったらこれから先の5年間のトレーニングをどうしようか？ ま、トレーニングは必要だけれども、ただ苦しいだけ、辛いだけ、或いは非常に厳密なストイックな、そういうトレーニングはしない。徐々に上げて行くけれども、飲み放題、食い放題、これは止めないと、決心したんです。

中略

あれ程の登山家があれ程の事をやって、とうとう登れなかった。だったら俺は登れるかどうか判らないけど、オレ流でやってみようか決めたん

です。

オレ流トレーニングのスタイル

実際にはどうしたか。どうせ毎日外へ出て、仕事や旅行で歩いている。その時必ず登山靴を履く、それも昔風の革の厚い、最低一・五キロある一番重い登山靴を履いて歩く。それに一年目は足首に一・五キロのオモリをつける。二年目からは二キロ、三年目からはほぼ五キロと。そんな感じで後は背中に、一年目一〇キロ位、二年目一五キロまあ三年目位からは片足五キロづつつけて、二〇キロ背負って、一日結構良くあちこちと歩きました。

神様？に出遭う

例えば東京は原宿のおんぼろマンションからすぐ眼下は明治神宮。朝六時半頃に登山靴、背中に二〇キロで神宮の森の中をウロウロ歩きます。

中略

ひよつとしたらあの方神様だったのかなあ……なんて。

オレ流トレーニングのパート2

そうやって二年位ジムへも通わず、オモリをつけ重い荷物を背負って平均一日一時間位づつ歩いて、それから富士山へ登ってみました。少し無理したんですけど、普通五時間と書いてある標準タイプをヒマラヤへ行くというような奴は三時

間位で登らなくちゃ、と仲間の登山家に言われて、ムキになって、三時間ちよつとは登れました。ああ、やれば効果があるんだなあと思えました。

それから後の三年間はヒマラヤのボーキョピーク五〇〇メートル、メラピーク六二〇メートル、アイランドピーク、そしてチョー・オユー八〇〇メートルというところで徐々にヒマラヤに……富士山は二・三十回二年間で登りましたけど、そして毎年二回づつ春と秋、秋と春とヒマラヤの高さを、山登りの技術を思い出したり習ったり、ということをやりました。

親父敬三のこと

中略

親父が今でも一〇〇歳超えても元気なのは、スキーが好きだ、山登りが好きだとずーっと続けていることもあるんですけど、五年間程前に出演した黒柳徹子さんの「徹子の部屋」と言う番組「僕もこの番組三回程出ました」で親父が披露しています健康法があるんです。

ひとつはスペシャルドリンクなんです。ヨーグルトと牛乳、それにきな粉とゴマの粉、黒砂糖、それから卵を酢に一週間漬けて殻がぶよぶよになった奴、これを全部ジューサーに入れてビューンと掻き回して、コップ一杯毎朝頂いてお目覚めと……。

二つ目は、朝起きてぼんやりしている時に、片方の鼻を指でふさいで、片方の鼻でゆっくり深呼吸する。右・左と交互

に繰り返す。約5分位。その時、親父はハーブを瓶に入れてますけども、石鹸でもない、何でも香りの良いものを嗅ぎながらやる。その後、いきなり舌を左右と力いっぱい出し、これを最低一五〇回はやる。

というわけです。どうしてこんなことをやるのか聞いたら、九〇歳過ぎて鏡を見たら、すごい皺が増え、老人シミが随分出て来ている。これを何とか取り除きたいと色々工夫してみても、この鼻呼吸と舌出しがいいということに到達したと言っ

親父と番組で対談して以来、黒柳さん

もずーっと実行しているそうです。舌というのはとても大きな筋肉で、間接的には喉の甲状腺ホルモン、或いは唾液腺ホルモン、どちらも生長ホルモンですが、これを刺激している。おまけに、不思議に頭から顎までの全部の筋肉、普段は使えない筋肉を使っている。結果として血の流れを良くして血管年齢も若返っている。そんな訳でこの舌出しはとってもお勧めですけど、人前では余りやらないようにお願いします。やたら人前で舌ばかり出しますと、今度は病院へ、それも精神科の方へ連れて行かれかねませんので……。

我々ヒマラヤで苦しくなると辛くなると、じつとテントで待機して我慢してる時なんか、舌だしたとか鼻呼吸とか手軽に出来るもんですから、これをやってみて、すっきりして高山病の予防にもなりました。

ヒマラヤ・死の地帯

ヒマラヤでだいたい七五〇〇メートル以上をデスゾーン死の地帯と言います。ベースキャンプ五四〇〇メートル、ここから出発して頂上へ行つて帰ってくるのに十二日間ですけども、実はベースキャンプへ行く迄に四年間かかってトレーニングし、更にカトマンズ出て実際キャラバンを始めて、初め二五〇〇・三〇〇・三五〇〇・四〇〇〇と五〇〇メートルづつ上がって行って、そしてベースキャンプへと、ほぼ三週間かけて、高さを体を慣らして行きます。それからいきなり登る訳ではなく、又々嫌になる程今度は高度順応訓練。更に六〇〇〇メートルのキャンプ1、ここへ一回行って又折り



返して帰って来る。又二・三日休養してもう一回行って、今度は六四〇〇のキャンプ2を立て、そして帰って来る。もう一回營々と二日ばかりで登ってキャンプ2へ二・三日滞在して七〇〇メートル位まで行く。僕らはそこでスキーなんかしていましたが、又帰って来る。ここで又四・五日休養して、更に今度は最終的に七三〇〇メートルまで登って帰って来ます。ここまで酸素なしで、ほんとに死んだ方がましだと思ふ位の苦しいことを繰り返す。そういうことによつて体が段々高さに慣れて行く。赤血球がどんどん増えて、1マイクロリットルの中に五〇〇万个あるというのが三〇%増える。増えるということは血液がどろどろに濃くなる。コンデンスミルク位の濃度にトマトケチャップを加えたような濃さになる。そして髪の毛の二〇分の一位の太さだといわれる3ミクロン位の脳だとか心臓だとかの毛細血管へその倍位の赤血球が体を縮めてピュッと通って行かなければならない。これが水分が少なくなり脱水症状を起こすと、あつという間に脳血栓、心筋梗塞、肺の中に水分が……とおまけに手の先などが凍ってしまうということになる。水分は下界で最低一日二・五リットルとらなければ、歳をとつたらもつととらなければといわれていますが、ヒマラヤでは、これが最低五リットル、行動する場合一日十リットルの水分をとらなければ死んでしまう、ということですがこの水も全部水を溶かして作ります。特に八四〇〇メートルくらいの高所になりますとほぼ沸騰する温度が



七〇度位ですが、折角登山用の小さなストープで小さな鍋でポコポコやつて沸騰したと喜んで水入れますがなかなか溶けてくれない。水を作るだけでも朝六時頃起きて、やつと水が出来てお茶飲んだりしてますと二時間半位かかります。水も空気もそうなんです。さっきの映像で酸素マスク凍ってましたけど、凍ると詰まったりして大変なんです。酸素ボンベ背負ってますと、これが消化器位の大きさで一本六万円します。今私達がここで吸っている空気が酸素二十一%位です。普段下界でぶらぶらして生活している時は、一分間に三リットルの酸素を吸って生きてるんだそうですけど、その分をボンベに換算すると一時間当たり一万円の酸素をただで吸っていることになりました。とても贅沢なことだと思います。そしてやつと八〇〇〇メートルまで氷壁を登って辿り着きます。八〇〇〇メートル以上は出来るだけ滞在時間を短くしないと高度衰退で体力がどんどん低下

し、それこそ何日生きておれるかという世界になりますから、高度衰退しないように、出来たらそこで仮眠して登って帰って来るということでない、非常に遭難する率が高くなるということです。

ただ風が強くなかなか出発出来ない状態だったんです。ゼットストリーム、この地球上の高度八千メートル〜一万メートルの間をヨーロッパの方からぐんぐんと一回りして、アフリカそしてイラク、アフガニスタン、パキスタン、それからヒマラヤのそばチベットあたりをがーっと通って中国から日本やアメリカへと地球をぐるっと西から吹いて来る風……がほぼ時速二〇〇キロなんだそうですけれども、これが寄らなくてもいいのに、ちょっとヒマラヤへ寄つたりすると、さっきの映像の中で山が見えたあととずーっと雲を引いている、あれなんです。そんな時登ったら人間はゴミみたいに吹き飛ばされてしまいます。

現に我々一日目サウスコル八〇〇〇の外に出られない。この時向かいの山、ドイッ隊がチョンユ八二〇一メートル（我々は一年前に登った）の頂上に登った帰り、急斜面でこの風に吹き飛ばされ、十人が全員遭難ということになりました。

我々はそのじつと我慢、昼頃風が止んで八〇〇〇の世界で一番高い峠を散歩してみようと思いました。（実は三年前そこからスタートして滑り落ちた所です。）

中略

鷲の墓を作つて少しはいいことしたか

と思いましたが、拝みながらふと、これはワシの墓だけど、ひよっとしたらワシの墓かなと、余り縁起でもない冗談が心のなかを掠めました。

いよいよアタック！登頂成功！

それから登つて八三〇〇くらいまで行きます。ベースキャンプから頂上までに一九〇余の遺体がある。一〇〇メートルおきに遺体がある。スコット・フィッシャーという有名な登山家の遺体が蠟人形のようになつていて、その側を通る。

とうとう最終キャンプ八四〇〇に着いて、これも又風が強い。ただベースキャンプからのコンピュータを駆使した情報で二十四時間先には風が収まると……この先三日間は大丈夫そうだという。じゃあ最後まで粘ろうということになった。やつとシエルパが我々の酸素、食糧を補給してくれて、もう一泊してアタック出来ることになりました。

そしてテントの外へ出て、これから登ろうと全装備して、頭にヘッドランプをつけて、ふと見上げると、これからアタックするエベレストが、とんでもない巨大な水柱を宇宙に向かった突き刺している。ずーっと先の真っ黒い夜空の星と、先に登って作業しているシエルパたちのヘッドランプが共にキラキラ輝いている。

だいたい地上では星というのは肩の高さから上ぐらいにある。八五〇〇になると気のせい、腰の辺りから天の川や星たちに包まれて、ああエベレストというのは一歩づつ宇宙に近づいているんだな

あと感動しました。

辛い、苦しい、死にそうだが、これは当たり前前のことで、それを覚悟で登ってますけど、そんなものは吹っ飛んだ感じじゃす。

そして夜が明ける。

とうとう九時間かかてやっと頂上へ辿り着くことが出来ました。

冒険とは生きて帰ることである

これは冒険家の植村直己さんが言っていた有名な言葉ですが、実は一言言葉が抜けていて、「冒険とは、死を覚悟して、そして生きて帰ることである」と言ったんですね。

頂上へ辿り着いたのは嬉しいんですけども、先程言いましたように、殆ど帰りに五人に一人は死ぬ。

中略

運良く、とうとうベースキャンプまで三日がかりで辿り着きました。途中何度も、よく死なないですんだというすれすれのところでした。

ニュースは勿論頂上登ったと、衛星携帯電話で……もう都内で電話するよりもはつきりと東京へ繋がります。チョモランマのてっぺんから……ということ、ニュースは世界中に伝わりました。

去年二〇〇三年はヒラリー・テンジンが登って五十年ということ、カトマンズで国際的な山岳会議を環境問題も含めて、随分やってきました。最後にネパールの王様がパーティをやる。日本人で七十歳で登った奴がいるということ、へ

リコプターを出して迎えに来てくれるという。有難いですけれども、ちよくちよくヘリコプターが落ちる。折角生きて帰ったのに、嫌だなあと思いましたが、運良く無事運んで貰いました。二日後に同じヘリがドイツ隊十人運んで行ったら、ベースキャンプ上空で墜落し、二人死亡、八人重傷という悲惨な事故がありました。

次の目標

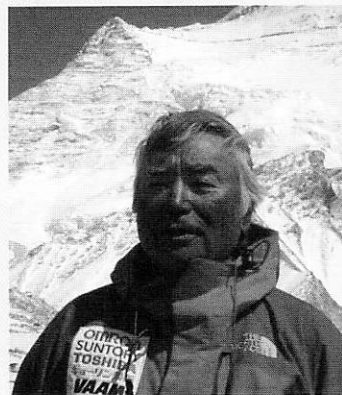
という訳で、ほんとに高い遠い夢を実現することが出来ました。

自分にとっては、願望が強ければ強い程、近づけば近づく程、頂上が遠く逃げていくという感じでもどしどし近づいていっても、とうとうやりました。

これは出来るかどうか判りませんが、二〇〇八年七十五歳になりますが、北京オリンピック。この時は聖火ランナーがアテネからシルクロードを通ってチョモランマの頂上そして北京へと。そういう壮大な聖火リレー、出来たら頂上で聖火ランナーの一人になってみたいなあなんて……。

また人、夢それぞれと、諦めないで一歩づつ呑気にスタートしようかと思っております。本当に今日は有難うございました。

――終――



Miura Yuichiro 三浦雄一郎氏

プロスキーヤー・クラーク記念高等学校 校長

1932年青森生まれ。1964年イタリア・キロメートルランセに日本人にして初めて参加、時速172.084kmの世界新記録樹立。1966年富士山直滑降。1970年エベレスト・サウスコル8000m世界最高地点スキー滑降（ギネスブック掲載）を成し遂げ、その記録映画「THE MAN WHO SKIED DOWN EVEREST」はアカデミー賞を受賞。1985年世界七大陸最高峰のスキー滑降を完全達成。アドベンチャースキーヤーとしてだけでなく、行動する知性人として国際的に活動中。2003年5月22日世界最高年齢でエベレスト登頂に成功。

講演内容、独断と偏見で要約しました。三浦先生お許し下さい。あまり詳細に書いてしまうと、今後「総会に出て講演を聞かなくても、その後の会報で読めばいいや」という人が増えても困りますので……。興味を持たれた方、目標や夢に向かって挑戦している方、健康で長生きしたい方は是非先生の著作の購入をお勧めします。近刊の一部を紹介します。

『三浦家のいきいき長生き健康法』

三浦敬三・雄一郎 共著

廣済堂出版／二〇〇四年六月刊

一、五七五円

『高く遠い夢』

七〇歳エベレスト登頂記

三浦雄一郎 著

双葉社／二〇〇三年七月

一、五七五円

『父の大きな背中』

三浦豪太 著

実業之日本社／二〇〇三年三月

一、四七〇円

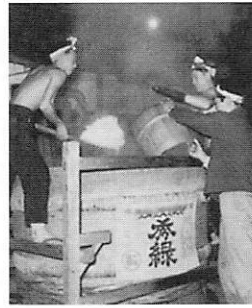
大塚酒造株式会社

茨城県岩井市岩井3351-1

TEL 0297-350002

FAX 0297-360005

吉田先輩の命により高21白谷政則が起草
代書しました。(文責=代書人)



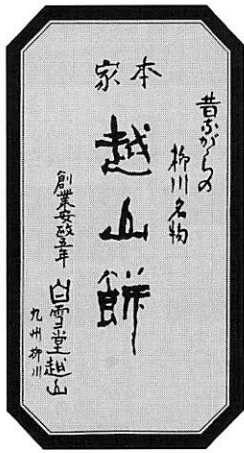
柳川名物「越山餅」

ご提供者——高10

大林俊明様
はくせつとうこうさん
(白雪堂越山)

(住所) 柳川市細工町64 (旭町から移転)
(電話・FAX) 0944-72-2082

※宅配便お取扱いします



「昔ながらの上品な本家伝統の味です。
口にすればふるさと柳川が甦ります。当
日は10名の方が抽選で当たり喜んでお持
帰りいただきました。(文責高10 内山)

科目	金額	科目	金額
収入の部	2,215,000	支出の部	2,161,338
会費 @10,000×184	1,840,000	総会・懇親会費	1,482,285
祝儀	50,000	講演・イベント謝礼	250,000
売店売上	325,250	郷土物産・書籍仕入費	363,204
		通信費・雑費	34,449
		お土産・景品代	31,400
		次回繰越	53,912
合計	2,215,250	合計	2,215,250

平成16年6月27日(日) 於 ホテルグランドパレス

同窓会売店 報告書

仕入先	品名	個数	販売金額計
三浦雄一郎	高く遠い夢	11	16,500
壇 ふみ	父の縁側私の書齋	5	7,000
立花文子(あやこ)	なんとかなるわよ	20	40,000
御花	幻のラーメン	10	10,000
高橋商店	金印貝柱粕漬	30	36,000
	金印海茸粕漬	30	24,000
	潮吹きあさり	30	15,000
	鯨軟骨粕漬	27	21,600
	まがに漬	50	15,000
	うなぎ骨	46	9,200
	ゆずこしょう	10	2,000
	金印寒干昆布	30	6,000
	はまぐり吸い物	20	2,000
千鳥屋	チロリアン	20	14,000
	チョコレートクランチ	119	23,800
まるえ	味噌	25	7,500
	しょんしょん	30	9,000
マルホ	塩のり	142	28,400
鬼丸	からし明太入りからかっちゃん	60	24,000
まるよし水産	有明のり佃煮	22	8,800
海東信子	日本酒『101』祝	4	10,000
	合計	741	329,800
	仕入計		△288,225
	諸費用		△4,550
	総会本部会計へ		37,025

総会収支報告書

「懐かしかねー」

「ほんなこつ このがね漬けば楽しみにし
とったと」

「柳川でしか買えんもんば嬉しか」

売店は、皆様のこのような声をいただきながら賑わいました

数々の品のなかでもタイラギ・海茸の粕漬
け、しょんしょん、がね漬けが人気ベスト
3でした

マルホの塩のりは、その後お会いした方々
からもおにぎりに巻いて最適との喜びの声
を数多く頂いています。

若手? 23回・35回生を中心に担当させて
いただきました

2時間という短い時間でしたが、懐かしい
柳川の品々を楽しんでいただけましたでし
ょうか

次回「こんな品を売店で扱ってほしい」と
いうご意見がございましたら、是非東京本
部または各学年幹事までご連絡ください

樋口(田上) 貴美子 高23回

【賛助金ご協力状況報告】

平成 16 年 4 月 1 日から平成 16 年 10 月 31 日まで

卒回	氏 名
高7	仲澤 貞夫
高7	浜野 弘子
高8	後藤 亨
高8	宮崎 道子
高9	斉藤 マスミ
高9	境 延昭
高9	高口 猛
高9	橋本 忠彦
高9	福島 たか子
高10	石橋 邦博
高10	金納 文子
高11	佐藤 輝代子
高11	山田 千代美
高12	谷本 玲子
高12	村上 国子
高13	石橋 正通
高13	田中 広征
高13	松尾 正孝
高14	境 サヨ子
高17	中島 功
高17	藤木 清勝
高18	石橋 淳一
高18	井口 文章
高18	松村 由紀子
高19	森田 達雄
高20	井口 ちづ子
高20	近藤 敬介
高20	高巢 和登
高21	蓮尾 秀子
高23	高田 健二
高24	後藤 一誠
高26	野口 佳延
高27	松藤 峯成
高27	東山 真由美
高31	田中 晃二
高31	田中 純子
高33	堤 泰充
高33	廣松 崇人
高伝1	永井 俊一
?	堤 フミ枝
協賛 0.5 口	
中50	田 辺 一 彦

(1 口 2,000 円)

卒回	氏 名
高8	本木 寅三郎
高23	樋口 貴美子
高23	下田 真知子
協賛 1 口	
中46	内山田 敦
中49	淡輪 晋
中50	乗富 一雄
中50	三山 心栄
中50	村石 厚吉
中52	大内 礼三
中54	野口 清二
中55	金森 隆茂
中55	古賀 昭夫
中56	成清 良孝
中56	松本 一郎
高信1	永井 俊一
女41	五十嵐 八千代
女42	棚町 啓子
女44	後藤 由紀子
女46	松藤 良子
女47	松永 征矢子
高2	池田 国彦
高2	内藤 美祢子
高2	大橋 貞夫
高2	古賀 苦住
高2	古賀 苦住
高3	一郡 辯
高3	今村 繁隆
高3	江口 ヒロエ
高3	臼井 ヒロエ
高3	高山 久吾
高3	田島 順次
高3	村井 タカ子
高5	近藤 正彦
高5	中村 裕彦
高5	野口 幹彦
高5	松永 悦子
高5	宮川 政實
高6	池田 勝嗣
高6	甲木 康博
高6	森 清旨
高6	森 時子
高7	大藪 成人
高7	具嶋 和子
高7	田中 健次

卒回	氏 名
高11	大森 靖子
高12	池松 博之
協賛 2.5 口	
中45	北島 年夫
中54	浅山 親司
中55	高巢 和夫
中55	吉弘 尚正
高2	大津山 太郎
高2	上河 京子
高2	添島 幸雄
高2	西山 彰
高2	廣松 敏克
高2	山下 武
高5	田中 起市
高5	中村 義行
高6	白谷 茂満
高7	中村 伴部
高7	野林 修
高10	大村 平人
高12	東 若芳
高13	龍 秀毅
高14	今村 悦子
高14	松岡 健二郎
高15	一木 克子
高15	乗富 真則
高18	星越 健一
高20	相見 るり子
高42	富重 信子
協賛 2 口	
高4	高石 敏男
高5	平野 善一
高7	梅崎 肇
高8	石貫 タツ子
高8	大村 泰生
高8	木下 清治
高9	木村 博子
高10	高口 義勝
高10	東 辰子
高12	深谷 悦子
高17	宇木 博巳
高18	満生 英二
協賛 1.5 口	
中51	野田 岩雄
高3	富重 眞一
高7	久良木 博道

卒回	氏 名
協賛 15 口	
高1	江口 國彦
協賛 10 口	
高5	吉開 孝一
高6	江崎 逸夫
高9	奥井 洋輝
協賛 5 口	
中46	近藤 新
中56	松本 学
中47	徳永 樹夫
中53	古賀 和典
中55	江崎 和夫
中55	武藤 吉郎
女28	山本 澄子
女34	古賀 弘子
女46	青木 栄
高1	與田 博利
高1	増尾 義勝
高2	江崎 洋二郎
高2	松尾 哲夫
高2	松平 隆子
高3	高 棟重夫
高5	沖 美津正
高5	古賀 弘
高5	下河 秀行
高5	松永 肅
高6	川口 健寿郎
高6	坂井 博己
高6	吉武 虎一郎
高8	堺 八郎
高10	内山 秀生
高10	渡慶次 侑
高10	渡慶次 侑
高11	北原 博
高11	鶴 精三
高11	徳永 雄三
高13	井手 寿美子
高13	原田 万紗子
高14	甲斐 昌彦
高16	椛島 正司
高18	川口 苦楽
高18	十時 理展
高22	高松 信子
協賛 3 口	
高2	徳安 朔子

伝習館東京同窓会賛助金 振込票通信欄コメント

敬称略

他界致しましたので信子1人になさ
って下さいませ。皆様のご多幸と
ご健勝の事をお祈り致します。遅く
なりましたが賛助金を送付致します
よろしくお願いします。 信子

高校6回 江崎逸夫

小野様
会報の足しにして下さい。

中学56回 松本 学
色々お世話いただき有難うござい
ます。

柳川並びに母校の近況等も併せて
お願いします。

高校2回 松平隆子

御世話になっておりますが長い間
御無音に打ち過ぎ失礼申し上げまし
た。今後共よろしくお願い致します。
遅くなりましたが会費として払込
ませて頂きました。

高校1回 増尾義勝

総会を控え幹事の皆様お世話様で
す。

高女28回 山本澄子

お世話様、ありがとうございます。

高校7回 中澤貞夫

第7回卒業です。
会報に柳川の近況・動きがのるの
で楽しく見えています。

高女42回 富重信子

なつかしい表紙の会報、ありがとう
ございます。感謝して拝見致してい
ます。富重静雄中44回卒 850001690

きました。

中学45回 北島年夫

第4号会報有難うございました。
会の益々の発展を祈ります。

高校10回 石橋邦博

毎回楽しみにしています。
高校10回 石橋邦博

中学56回 成清良孝

いろいろとお世話さまです。
些少ですが、カンパです。「貧者
の1灯」のささやかなプライドをこ
めて。

高女41回 五十嵐八千代

少しですが、会の発展の為納入さ
せて頂きました。
前回44回となっておりましたが、
私の記載間違いだつたでしょうか？
おわびします。高女41回卒業です。

高校7回 野林 修

新高第7回卒業（昭和31年卒業）
伝習館東京同窓会報大変なつかしく
拝見させていただきました。

高校7回 大藪成人

第4号読みました。
修学旅行が東京での課題別研修に続
き、メインがスキー教室とは驚きで
す。

私たちは京都、奈良の歴史上の観
光場所でした。

高校8回 堺 八郎

会報の賛助金の事、気がつきませ
んでした。

遅くなりましたが、遅らせていた
だきました。

高校24回 後藤一誠

会報楽しく読ませていただいでい
ます。
*同期の住所録がいただきたい！

高校31回 田中晃二

お世話さまです。
高31回卒業

中学56回 松本一郎

格調高い会報を楽しく読ませて頂
きました。

中学55回 古賀昭夫

東京同窓会の御活躍ぶり・特に伝
習館修学旅行生の受入状況・御親身
な御世話に感激しました。在校生は
さぞかし思い出の1頁を青春記に飾
ることが出来たことでしょう。江崎
会長以下、幹事の方々の御苦労に感
謝します。
中学55回卒業 古賀昭夫

高女42回 棚町啓子

何時もお世話様でございました。
同窓会の方は欠席させて頂きま
す。

高校11回 北原 博

高校11年次卒業（昭和35年）
伝習館東京同窓会学年幹事と東京35
回事務局を引受けております。東京
35回は伝統もあり、毎年、花見会、
ゴルフ会、同期会をやっております。
35会の皆さんご参加をお待ちしてお
ります。

高校6回 森 清旨

ご無沙汰致しまして申し訳ありま
せん。江崎会長初め委員の皆様には
公私共々ご多忙中、同窓の志を思う心
で会の活動をひっぱっていただき、
本当に有難うございます。厚く御礼
申し上げます。会報第4号をいただ
き、故郷「柳川」の香りをのせて何
回も拝読しました。どうぞ各委員の
皆様には、よろしく申し上げます。

高校20回 相見るり子

同窓会会報ありがとうございます
とても懐かしく拝読させて頂いて
います。

中学55回 金森隆茂

会報の表紙、ほのほのと懐か
しい風景に郷愁をそそられ思わず帰
りたくなりました。

高校2回 大津山太郎

平成16年5月伝習館東京同期会
（高2）にて江崎会長にお会いして、
東京同窓会の活動状況を知りまし
た。会の発展と皆様のご健康をお祈
りいたします。

高校9回 福島たか子

私だけ読んで保管しておくのも惜
しいと思ひ他の卒業生の方へ回しま
した。とても懐かしく喜ばれました。

中学50回 乗富一雄

東京同窓会報第4号受領しまし
た。
会の発展と皆様のご健康を祈って
います。

中学50回卒 乗富一雄

中学50回 村石厚吉

会報第4号 ありがとうございます
した。

高校10回 渡慶次侑とけしすけ

高校10期同期の川口圭之君より「伝習館東京同窓会会報第3号」を送付していただき、その後「創刊号2003・1・1」と「第2号および第4号2004・6・1」を同期の内山秀生君よりご送付いただきました。編集委員に同期の永倉(跡部)素子さんと内山秀生君がなっている旨を聞き、「会誌の編集」ご苦労様です。感謝申し上げます。

また、多才豊かな素子さんと秀生君の幹事二人の編集員故、これからの健筆を期待しています。会長の江崎正直大先輩は、沖端から昭代古賀の間にある架橋「三明橋」渡った古賀にある「江崎衣料品店の次男坊の秀才との褒(ほめ)者」の大先輩です。小生は小学校時代は当時の三瀨郡昭代村字古賀でございました。(昭代第二小昭和28年卒業)です。

高校18回 川口苦楽

会報いつもなつかしく拝読させていただいております。子供も大学生になり、やっと一段落しています。それから会報は夫婦共々、「伝習館」なので二人一冊で結構です。

高18川口苦楽
高26川口加代美

高校12回 谷本玲子

同窓会誌をなつかしく読ませていただいております。

中学54回 浅山親司

母校の為、ごくろうさま。会報に綴じ孔があると便利ですが……

高校7回 中村伴部

いつもお世話になっております。今後共よろしくお願いいたします。

高校17回 宇木博己

高校17回卒です。大変遅くなりました。6月27日の東京同窓会では、同期は6名の参加でしたが、懐かしい時を過ごさせていただきました。

高校20回 高松信子

いつもお世話さまです。柳川を離れ年を経ることに懐かしさがつおります。会報いつも楽しみにしております。

高校2回 徳安朔子

暑い日が続いております。先日のお窓会大変お世話になりました。心ばかりの賛助金3口六、〇〇〇円お送りします。

高校9回 奥井洋輝

東京同窓会報を博多で楽しく拝読しております。

高校3回 西山 彰

伝習館同窓会顧問 元伝習館校長(昭27年卒)

高校2回 廣松敏克

会報第4号お送りいただき、有難うございます。楽しく拝読いたしました。

高校2回 廣松敏克

会報第4号お送りいただき、有難うございます。楽しく拝読いたしました。

した、東京同窓会の益々のご発展をご祈念いたします。

高校15回 一木克子

総会では大変お世話になりました。ありがとうございます。

中学55回 高巢和夫

いつもお世話になります。日16年度として前年同額を送りますので宜しく、ご健康を祈ります。

高校13回 井手寿美子

先日のお窓会と同窓会、大変お世話になりました。ありがとうございます。

高校19回 森田達雄

グランドパレスの同窓会には一度は行きたし、奈良の鹿。靖国とそして湯島聖堂の孔子様も、一度は拝みたし 君の里。

高校27回 松藤峯成

修学旅行生受入れの記事に、感激しました。

住所に〒110-0012 澁れがありますので連絡します。

習志野市本大久保4-16-12-302

ライオンズヒルズ習志野の杜 壱番館

高校27回 東天真由美

第27回卒です。いつもありがとうございます。

たです。

高校14回 松岡健次郎

毎回、会報を送って頂き有難うございます。遅くなってすみません。高14回卒

高校3回 高柳重夫

久しぶりに東京同窓会に出席させていただきます。特別講演・ミニコンサート・抽選会と盛沢山で楽しいひとときを過ごすことができました。新しい流れが出来つつあり、今後を期待しています。

高校10回 大村平人

知らなかつた伝習館の歴史や同窓会のこんにちの動きが良くわかり、同窓会報を読むのが楽しみです。編集委員の皆様のご苦労には頭の下がる思いです。同窓会に出席して、同期の横の広がりだけでなく縦の継がりを待つことができるようになりました。

高校26回 野口佳延

遅くなって申し訳ありません。

高校15回 乗富眞則

転居致しました。お世話になり有難うございました。

高校2回 古賀苦住

「なんとかなるわよ」の代金のつもの賛助金です。

高校7回 浜野弘子

伝習館東京同窓会会報を御送付いただきお世話様でございます。

大変遅くなり申し訳ございません。会費を送らせていただきます。毎回興味深く拝読致しております。

高校7回 梅崎 肇

同窓会賛助金をお送りします。東京同窓会総会(04・6・27開催)には残念ながら参加できませんでした。次回には参加しようと楽しみにしています。

高校5回 下河秀行

人生70 古希稀なり「伝習館東京同窓会」会報が出来て正月の新たな楽しみが生まれました。東京同窓会は財政難の中、編集者の方々の大変なご苦労で出来ています。昨年は私達同期生が古希を迎え、伝習館高に因んだ行事が沢山ありました。5月には福岡県人会で筑後地区が担当幹事だったため、岩下智子が「北原白秋の詩に因んだ曲」を特集演奏しました。6月の東京同窓会でも同窓会の副会長原田万紗子さんがコーラスグループを引率され白秋を歌われ、同6月には柳川御花で「古希を祝う同期会」、最後は9月に神奈川県鶴巻温泉で「第5回卒二九の会同期会」と伝習館漬けの一年でした。伝高同窓生、今年も元気で頑張りますよ。



東京に輝ける三稜の星たち

「東京同窓会」の歩み―その5―

副会長 松永 肅

伝習館が創立80周年（県立移管150年）を迎えた昭和50年頃の世相は、田中角栄、三木武夫、福田赳夫、大平正芳、鈴木善幸、中曽根康弘内閣と目まぐるしく交替し、第1次オイルショック、日用品買い占め騒ぎ、三菱重工本社爆破事件、ルパン島で小野田少尉救出、ロッキード事件で前田中首相が逮捕、円高不況の深刻化（1ドル241円）、日中平和友好条約調印、成田空港開港、第2次オイルショック、スペースシャトル打上げ成功、東北・上越新幹線開業、つくば科学博開催と激変した10年間でありますが、当時の生活環境はオイルショックなどを経てモータリゼーションからゆとりへと価値観がシフトした時期だったと思われま

す。このような中、伝習館では学園紛争の余燼が治まらず、創立80周年の式典は中止されて、記念に運動場フェンス外柵と図書館の渡廊下（鉄骨、中2階）の建設と柳河高等女学校記念碑を市民会館前（旧柳河高女跡）の竣工のみに留められております。東京同窓会もこの時期、昭和52年は5月29日（日）に開催されましたが、オイルショックなどで景気が不安定であったこと及び、同窓生の数が転居や宛先不明などの増加で、当日出席予定の127名のうち12名が欠席され、経費のうち約48,000円の不足が予測さ

れました。古賀義利先輩が「一人平均3000円のカンパを」の発案で、当日司会を務められていた木下健氏（高2回転校）が会場の皆さんに提案され、気持ち良く協力いただき事なきを得た苦い経験もいたしました。

この時の会費は、一般4,000円・学生3,000円でありました。会場には旧柳河高女卒業の皆さんが多数出席され、楽しい雰囲気の中で開催された記憶が残っております。

来賓には谷口安則校長をはじめ中村岩次郎同窓会長などのご出席をいただきました。また元外務事務次官で英国大使などを勤められた森 春樹氏や、後に東京同窓会の会長を長年に亘り務められた元三菱重工業社長の古賀繁一氏などが出席されるようになったのもこの頃からであります。

当時の東京同窓会は、宮崎駒吉、立花盛枝、河口静雄、森 春樹、白谷信一、福山 寿、平木道人、本吉信雄、古賀義利、古賀貞子、杉坂みち、永淵サダ、宮崎あさ氏の他多くの皆さん方が携わっておられました。

元会長の故上田卓爾氏の後を引き継がれた宮崎駒吉会長は、明治40年、中学第14回のご卒業で、熊本の5高・京都大学を経て、電気技術者となられ、三菱電機

では電気機械の研究・制作に没頭され、実力を遺憾なく発揮され戦後三菱電機の二代目の社長を務め上げられました。晩年は故郷のため幼少の頃過ごされた三池町の隣村の銀水高等小学校（現在の橋中学校）に25メートルのプールを寄贈されたと漏れ聞いております。母校伝習館のためにも、周年記念事業や校舎の増改築などの協賛をはじめ学校教育の為には惜しまず協力されました。東京同窓会にも、発足当初から多大な貢献をされたことは皆さんも周知のとおりであります。ご趣味はゴルフで、晩年は齢90歳になられてもなお、ご自身の体力維持のため、自家用車などをご利用にならず、ゴルフ道具を担いで渋谷のご自宅から電車に乗り継いで東武東上線の霞が関ゴルフ倶楽部まで往復してゴルフを楽しんでいると得意げに話しておられました。宮崎会長の補佐役の立花盛枝副会長は、明治45年、中学第19回のご卒業で、大正7年に早稲田大学を卒業と同時に日本郵船に入社され約30年、その間欧米留学の後、欧米豪華各航路の客船の事務長としてその大半を海上勤務で活躍され、特に豪華客船「秩父丸」の事務長として太平洋横断132回の不滅の記録を樹立されておられます。

戦後、国営のホテルテートに総支配人として招かれ、以後同ホテル社長、パレスホテル専務取締役総支配人、ホテルグランドパレス副社長総支配人、箱根観光ホテル社長などを歴任される一方、日本ホテル協合理事、早稲田大学の評議員・校友会幹事、稲門経済倶楽部会長、ホテル稲門会会長、などをなされ、母校早稲

田大学の発展と後輩の育成に務められました。又郷土のためには福岡県人会、伝習館東京同窓会、柳川出身者のみろく会などの会長あるいは世話人として業務多忙のなか郷土の発展、育成に尽力されたことは既にご高承のとおりであります。また、趣味の面でも多岐に亘られ、特に「朝顔」の栽培に関しては「日本朝顔会」の会長で且つ、その道40年の権威者として斯界でつとに有名でありました。

宮崎会長が昭和55年4月享年92歳で、立花副会長が昭和61年8月享年93歳で故人となりましたが、いずれも郷里柳川



挨拶される中村岩次郎同窓会長（中央）
右から立花盛枝東京同窓会副会長、宮崎駒吉東京同窓会会長

はもとより母校伝習館への思い入れは強く、産まれ育った故郷を大切にされておられたようでした。また、同窓の後輩の面倒も良く見て戴き、いろいろな事でお世話になった同窓生も数知れないものと思われます。

昭和52年、この頃から伝習館の同窓会が東京でも開催されるようになったことが噂になり、同窓生からの問い合わせが頻繁に来るようになりました。なかでも同窓生の名簿が欲しいとの声が大半を占



古賀繁一氏(中央)と、後列右端から永江政勝、江崎和夫、武藤徳一、高巢和夫、浅山親司の各氏。前列は柳河高女の皆さん。

めておりました。しかし、事務局の手下にある名簿の数では、東京同窓会として発行するには貧弱であり、それでも発行するには台帳の整理も必要であり、思案したあげく、当時事務局の手伝いをしていただいていた金子誠也氏と検討した結果、出来るだけ同窓生の要請には応えることとし、経費を節減するため、名簿は謄写版印刷で、用紙はわら半紙を使い、ガリ版の筆耕は金子氏に引き受けていただき、約1ヶ月の日数で手作りでの名簿

が出来上がりました。完成したのは昭和53年7月で、掲載された人数は約420名でありました。会員数も当初は約900名近くあったものがこの時点で転居先不明や逝去などで半減したことになります。新しい同窓生名簿の補充が思うにまかせず手の打ちようがない状態が続いておりました。出来上がった同窓生名簿を希望者に無償で配布しているうちに、学年の幹事の方々からの名簿の提出が少しずつ増えてきました。

いた先輩をはじめ、みろく会にご出席の先輩方には古賀義利氏を通して了解していただきました。当時同窓会の繰越金が約7万円近くありましたので、これを取り崩し250部作成しました。昭和54年度の東京同窓会は、この5月27日(日)に九段下のホテルグランドパレスで開催されました。来賓には谷口安則校長、高宮純士同窓会長、古賀杉夫元柳川市長、古賀 肇柳川商業高校校長が臨席され、和気あいあいの中で楽しく開催された記憶が残っております。この時の同窓生への案内は手元の名簿のほか寄せられた約150名を加え596名の方々案内し、出席者は107名でありました。代表挨拶をされた古賀繁一氏が「自分が現在あるのは、幼少を柳川で過ごし、母校伝習館で伸び伸びと学んだ賜ものであり、これからは郷里に少しでも恩返しをしたい。」とのご意志を述べられました。翌月の6月18日(月)に開催された「みろく会」の席上で、宮崎駒吉会長から、「次の同窓会からは、古賀君、君が会長を務めるように。」の一言で会長就任が決定されました。この頃までは、みろく会が東京同窓会の幹部会の機能をはたしておりましたので、ご出席の皆さんも全員一致で承認されました。当日ご出席で伝習館の諸先輩の方々は、森 春樹、河口静雄、立花盛枝、大坪藤市、江口三千雄、濱岡雄一、大内隆祐、今村尚徳、松田 含、小柳 潔、草刈栄一、古賀義利、安藤祥介、山本 汎、松本定策、谷川彰敏、古賀繁一、それに宮崎駒吉の各氏でありました。

古賀繁一氏(中学28回卒)の詳細な経歴については後述させていただきますが、昭和46年に三菱重工業の社長に就任され、以後会長、相談役を歴任されました。

このことは、当時同窓会の運営に協力いただいていた、成清良孝、江崎和夫、永江政勝、田中禮二、増尾義勝、金子誠也氏などにも報告し、賛同を得た記憶が残っております。

また、この時実費(一部300円)で販売した会員名簿は約50部のみの購入実績に留まり、当初の思惑が完全に外れ、失敗に終わりました。同窓会を運営して行くには、逆算して必要名簿は少なくとも約1,000名分が必要であり、目標に近づけるための方法を模索していたところ、増尾義勝氏から旧制中学・柳河高女に入学した昭和17年から昭和21年入学によって組織され発足した「五期会」の名簿を提供していただきました。それには約350名を超える氏名が掲載されておりました。これで次回の昭和56年度の同窓会も何とか安心して開催できる目途がたち安堵いたしました。

翌55年に副会長の古賀貞子氏が逝去され、古賀繁一会長のご指名で前会長の令夫人の宮崎あさ氏(高女21回卒)が就任されることになりました。

これにより次回の東京同窓会の新役員は会長に古賀繁一、副会長には立花盛枝、宮崎あさ、の各氏が就任されることになりました。

先輩・後輩より

「ウォーキングの効用」

高3回 高椋重夫

四月半ば、(社)日本ウォーキング協会主催の「久留米つつじマーチ」と高三回卒「古稀同期会」の参加を兼ね、久しぶりに帰郷した。東京から参加のウォーキング仲間と共に、鮮やかなピンクの久留米つつじが咲き乱れる筑後平野を二日間、にわたり楽しく歩いた。その前日は、福岡空港から直接柳川へ足を延ばし「川下り」をすることになっていたが、昼食は柳川で名物の「うなぎのせいろ蒸し」を是非食べたいとの要望が多く、急遽空港から携帯で「本吉屋」に連絡を入れた。「本吉くんの小学校時代の友人ですが、社長いますか? 今から仲間十数名で寄りたいけど座れる部屋はないかな?」

「今、不在なので、すぐ連絡をとります」

早速「本吉に久し振りだね。席を空けて待っているから……」と電話があった。突然の往訪に拘らず大変喜んでくれた。三十年ぶりに会う本吉くんだったが、ヒトの好さは少しも変わらず昔のままだった。江戸時代から受け継がれる秘伝のタレが染み込んだご飯に炭火で焼いたう

なぎの蒲焼きをのせ、せいろで蒸し上げた料理は、遠来の客には珍味であるが、その味覚には一同大いに満足していた。食後は本吉くんも入れて皆で記念写真を撮り本吉屋を後にした。

スポーツの汗が心地よい季節となったが、ウォーキングは、誰でも、どこでもいつでも始めることができ、しかも一人でも始められるため、昨今は愛好者が急増している。今回のウォーキングにも全国各地から二日間で一万四百名余の参加者が訪れ予想以上に盛会であった。

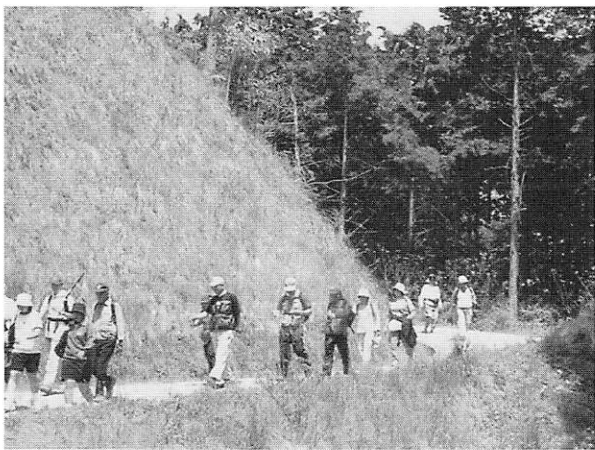
私にとっても、今やウォーキングは「楽しみながらできる理想の健康法」であるが、社会的には個人で参加可能なボランティア活動の一つでもある。ウォーキングは、ストレスの解消、腰痛・肩こりの予防効果もさることながら、行動範

囲の拡大で「自然との出会い、人との出会い」という別の大きなメリットもある。今回の九州行きも、きっかけはウォーキング仲間からの誘いにあっただし、それへの参加が「古稀同期会」出席へとつながった。

同期会の会場は、同期の富安くんが経営している「ニュー白柳荘」であったが、無形文化財ドロクドン等で、われわれの古稀同期会を祝し歓迎してくれた。今回の参加者は百十二名強で、地元以外の関東・東北等遠隔地からも約二十名が参加しており、多くの友と旧交を温めることができた。二次会はカラオケで盛り上がり、午前様になってしまった。

代表幹事の海部くんとも久し振りにゆつくり再会することができた。

「久し振りだね。何年ぶりだろう?」



久留米つつじマーチ



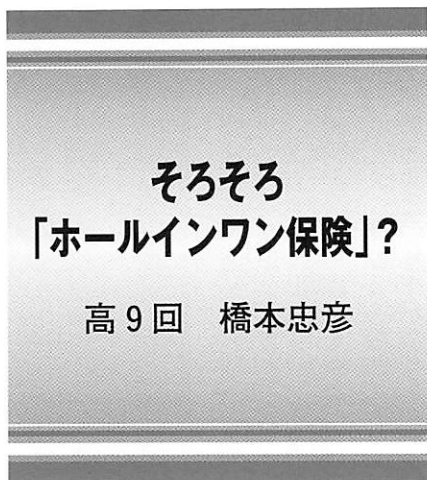
柳川 ドロクドン

「五十数年ぶりかな？ 懐かしいね〜」
「君のお母さんのことは、終戦記念日が来るたびに思い出すよ」
「おれもその時のことはよく憶えている」



海部くんとは小学校時代から一緒に柳河小学校へ通い机を並べた仲だった。終戦当日、二人で中学伝習館の受験勉強していた部屋に、お母さんが涙を流しながら入ってこられ、天皇陛下の玉音放送を聞くように言われた。最初は何がなんだかさっぱり意味が分からなかったが、「日本が戦争に負けた」ことを子供ながらに知り、大きなショックを受けた。終戦記念日のたびに、その時のことを走馬灯のように思い出す。

ウォーキングに端を発して今回の帰郷が実現し、いろんな出会いがあったウォーキングのもう一つの効用である「出会い」を再確認することができた。



〇〇でも、やってみるか…。時間がたつぷりある歳になってきた。最近の新聞やテレビなど各メディアは、しきりに老後こそ、あれやこれやにチャレンジするチャンスとか、土日や祝日を計算に入れ

ると、第二の人生は社会人の40年間に匹敵する時間がある。その気になれば、まだまだやれるなどと煽りたてる。

一方、ボランティア活動やカルチャースクールなどには見向きもしない輩は、まるで社会悪の根源か、はたまたそれ自体が罪であるかのように追い打ちをかけてくる。放つといってくれと言いたい。

この先、年金がどうなるかが、精神的なハッピー・リタイアメントという見識や心象は、この国にはないのであるか。これでも一応、企業戦士（古いか）としてウン十年間を戦ってきたのである。

決して気力がなまくらになっていくわけではない。誰もが、ただ、人生の句読点の打ち方をあれこれ迷っているだけのことはなからうか。

周りを見回しても、まだまだ新しい恋へのときめきも、銀座や新橋で無頼する無謀さも持ち合わせているつもりでいる友人は数多い。そのほうが幸せだ。

それにしても1年1回、同窓会（ムツゴロウ会）で会う女性たちの何とパワフルであることか。その伸び伸びとした活力には目を見張られるものがある。

エアロビクスやコーラスやフラダンスや、それにパート勤務にと自分の楽しみを見いだし、美しく歳を重ねている彼女たちは、かつて机を並べたオジさんにとってはミステリアスでさえある。

それに比べ、現役を引退した男たちの無聊さの態はどうしたものであろうか。我々の老後を、お節介にあげつらうメディアの言い分もわからないわけでもない。

「九州おなご」のDNAをしつかり受け継いでいる、同窓の女性たちのエネルギーに誘発されたわけでもないが、2月のムツゴロウ会で「俺たちは、ゴルフでもやってみるか」、たいして期待もせず、ダメモトで提案してみた。

ところが、その提案に即、応えてくれたのが、胃を切っているにもかかわらず、相変わらずどすの利いた声でズケズケものをいうが、根は気がいい広松武紀君。それに、酒はドクターストップながら、カレンダーは毎日予定でつまっている境延昭君に、まだ2年は現役続行の予定という堤 泰充君。メンバーが揃った。

ゴルフ当日は、成績の悪さを風や雨のせいにはできない、まさに絶好のゴルフ日和。コースは広松君がメンバーの太平洋クラブ江南コース。初めて一緒にプレーするメンバーの実力のほどは、スタートホールで第一打を打った瞬間、相手にきちんと伝わるもの。ゴルフの怖さである。

広松君の実力は、ムツゴロウ会で聞いた通り。あとの2人は「だいたい100前後かな」とのことだった。55歳でゴルフを始め、デビュー以来こなしただラウンドは85回、その間、100を切ったのが4回という私にとって、一緒にプレーするところには、ひと安心のスコア申告である。ところが、スタートホールのドライバーショットの球筋から、堤君の申告は少々控えめであったことがわかる。

ともあれ、各ホールお互い「よかばい、よか、よか」と久しぶりの柳河弁を飛び通わせながらプレーを重ねること6番ホ

ール、135ヤードのショートコース。オーナーは広松君、もちろんワンオン。次は堤君。手にしたのは9番アイアン。ボールはグリーンに向かって真っ直ぐ飛んでいくが、ちょっと短いかと思っただ、そのボールがグリーン手前からトン、トン、ツーツーと転がって消えてしまった。まさかまさかのホールインワン!

その瞬間、堤君の体をどんな衝撃が突き抜けたかは知るよしもないが、あれで、目撃した者にとっても、一瞬、体が無重力状態になったような、浮遊感に包まれたような、摩訶不思議な気がするものですね。

ところで、ホールインワンといえば、ゴルフをやる方なら、まず「ホールインワン保険」に入っていたかどうか気になる。ところが、後日、堤君は2カ月間を費やし、ゴルフ仲間と何回かにわけて「祝賀会」を開いたという。

もちろん、ホールインワン「見届け人」たる我々3人も、しっかり御馳走になったことは言うまでもない。

この会報が出版されている頃までには、同じメンバーでさらにラウンドを重ねていることであろうが、ラウンド4回目を終えた現時点で、広松、堤の両者は80台でお互いに競い合っている。

境君と私は「いつもの通り」のスコアである。悲しいかな、自分、ホールインワン保険に入る必要性はまったく見当たらない。ただし、境君はフェアウエーキープ率80%前後を誇っている。

ともあれ、二人の実力者にとっては、腕前ソッコの者が相手ではリズムに乗

れず、やりずらいはずである。それなのに、ラウンド終了後、さっさと次の日程を決めるところからすると、スコアはともかく、気が合うゴルフ仲間としてそれなりに認めてくれているのであろう。

ラウンド終了後の帰り道、お決まりの洪滞にまき込まれながらの私は、次こそは!の悔しさと、3回もダボをしなかつたら、とか、あの池ポチャが出ていなければ、とか、「タラ・レバ」の反省しきりであるが、暮れなずむ空に夕陽が溶け込んでしまふ頃まで遊び、友達と一緒に道草しながら家に帰った、子供の頃のあの充実感に似た心地よさがある。

東京生活40余年間でつくった友達といえども、こうはいかない。



右から広松君、ホールインワンの堤君、境君、筆者

定年ボランティア奮闘記

ギリシヤあれこれ (四)

第六回 岡田哲也

口は達者だが平気で約束を破り、損すると分かれば契約を紙切れにしてしまう国。ギリシヤ人と取り引きした人なら、多かれ少なかれこのような体験をしている筈なのに、なぜか憎めない国。

息をのむほど美しい、絵のような海や島々、そして年中咲き乱れる花々。メロンやサクランボをはじめ安くて美味しい果物、新鮮な野菜や魚介類。子供の頃から親しんだギリシヤ神話のふるさと。

商売を離れてみれば底抜けに親切で心優しい人々。ニッポン大好きという人の多い国。好きになる要素がこれほどそろっている国が他にあるだろうか。

永年あれほどお世話になり、あんなに親切にしてくれたのに、自分はギリシヤ人に一体何をしてあげただろうか。何れご恩返しをしなければと思っていただけに、アテネ五輪のボランティアを志願するのは迷いはなかった。

そこで二〇〇二年、ギリシヤ旅行のついでに組織委員会本部を訪問し、申込書を提出したのはよいが、翌三年になって

「ボランティア申込者は面接を受けること」という通知がきてビックリ。

ボランティアに面接?

メールで尋ねると、面接を受けない人は失格になるというので、やむなくまたアテネへ出かける。

申込者が定員の何倍にも達し、人数を絞り込むためと、タダでギリシヤ観光と五輪見物をしようというやからを排除するためだったらしい。

道理で志望の動機をあれこれ訊かれたわけだ。足かけ十二年のギリシヤ体験を夢中で語り、恩返しがしたいのですと言いながらフト気がつくとき、面接官の女性が涙を流して聴いていた。

(そんなに感動的なこと言ったかなあ) と思ったが、これで採用を確信。

いざ本番が近づき、困ったのが宿の問題だった。研修期間と合わせると七十泊もしなければならぬのに、組織委員会から突如「宿の世話はできません」と言われ、ぞーたんのゴツ、と飛び上がったが、自分で宿を確保しない限り、ご恩返しなど夢ということになってしまった。

やむなくメールや手紙でアテネの知人に頼みまくったものの、開催直前ということもあり、全て約定済みでまだ空いている部屋などひとつもなかった。

万事休すと思った時、助けてくれたのが昔の大家さんだった。

「食事の世話などできないが」との条件付きだったが承諾の返事がきた時は地獄でホトケの思いだった。

やっとアテネ入りしたものの、今度は配属が決まらず、組織委員会に日参する

ことになる。「第一志望野球、第二志望ソフトボール、理由はギリシアではマイナススポーツだから」と申し込んであったのに、なぜか柔道に回される。

意外ではあったがアテネ五輪の成功を支えることに変わりはないと自分に言い聞かせる。何をやるのかと思ったら、仕事は三つあって、一つは選手休憩室の接待係。役員やコーチに飲食物を渡す役目で、バーテンのようなもの。

二つ目は会場通路の出入り口監視。競技場と選手控え室を結ぶ通路は一般の立入禁止で、許可証のない人は通さない。これはいわば看守。

三つ目が報道陣のお世話。テレビ以外は競技場内に入らず、記者たちは試合を終わって退場してくる選手を通路のフェンスの外で待ち受けて取材するのだが、うっかり見過ごしたり、呼びかけても答えずに通過する選手もいる。

頼まれて呼んでくると感謝されるがいわばガキの使いで、周旋人と自称した。中には負けて泣いている選手がいたり、国によっては言葉が全く通じず、本部に通訳を手配してもらうなど、気働きが必ずな場合も多かった。

柔道は初日から金メダルラッシュ。ボランテアは特定の国を応援してはならないきまりだが、胸に燃え立つ思いをいかにせん。表彰式のたびに会場に駆け込んで日の丸を仰ぎ、君が代を謹唱。

阿武さんに

「ボクモ柳川です。応援してますよ」

と言うと、こんな所で柳川人に会うとはよほど意外だったのか目をぱちくり。

そのせいでもないだろうが彼女も金。フト考えた。「日本選手のために何かしてあげられることはないだろうか？」

そこで思いついたのがメロンの差し入れである。ちょうど出盛りでめっぽううまい。一口大に切り、選手休憩室の冷蔵庫で冷やして午後、計量の済んだ頃を見計らって出すと、大好評だった。

丸くて黄金色のメロンに込めた祈りが通じたのか、日本チームは金メダル続出となり、我ながら満足だった。

選手に話しかけたり、競技会場に食べ物を持ち込むことも禁止事項だったが、思いがけないことに柔道競技の最終日、「ボランテア・オブ・ザ・デイ」に選ばれ、世界柔道連盟から感謝状と賞品を授与された。驚いてわけを尋ねると

「働きぶりがボランテアの模範として評価された」

とのこと。ルール違反ばかりやっていたので、いささか気が咎めたが、これは私の金メダルになった。

ボランテアのと派手なユニフォームを着て街を歩くとよく道を尋ねられる。目立つし、話しかけやすいらしい。

ついでによく訊かれたのが「給料は出るんですか？」

である。給料ばもろうたらボランテアじゃなからうもん。

その次に多いのが「ユニフォームを売ってくれま

せんか」だった。三着支給されてはいるが、これは一生の記念品である。市販されていないこともあり、人気が高く、二百ユーロでどうかという人も少なくなかった。

無給の代わり、地下鉄やバス、トラムなど公共交通機関はすべてタダで乗り放題。アクロポリスや歴史博物館なども入場無料だった。

柔道が終わった後、一同解散となったが私は活動継続を志願して野球に回り、野球が済むとまた柔道会場に戻って今度

はレスリングのお手伝いをした。

オリンピックの後、さらにパラリンピックのボランテアになったが、これらの体験はまたの機会に譲りたい。

多くの選手たちから受けた感謝、数々の出会いを通じて知り合った世界の友人たち、そして「やりたいことをやり遂げた」という満足感。

とはいえ大家さんはじめ多くの人々から受けた好意を思えば、恩返しのももりが、返り討ちに会ったような気がする。

We♥ギリシャ

元「商社マン」恩返し

*

名。帰国後、ギリシャに関して何かをしたかった。五冊の著書も出版した。

「古里に戻る五輪にぜひ参加したい」と、一昨年二月に組織委を訪問、昨年八月には再びアテネを訪れて面接を受けた。

■67歳単身で
大手商社丸紅の元社員、岡田哲也さん(67)(神奈川県鎌倉市)は七月二十六日、アテネに入った。一九七〇—七五年にアテネ出張所勤務、八四—八九年にはギリシャ最大の貿易港、ピレウスの出張所長を務め、九七年に定年退職した。

十二年の駐在中、ギリシヤ人の温かさと美しい風景に魅せられ、アテネ生まれの二男には、アテネの漢字表記をあてた「雅典」と命



ATHENS 2004

女性面接官は感動して泣き出してしまったという。五輪からパラリンピックまでの約一か月、単身、アテネで暮らす。「(1)ここ



長女を連れ現地入りした大倉さん(中央)と柔道会場で活動する岡田さん(右) 増田教三撮影

学年幹事より

高十四回ミニ同期会開催

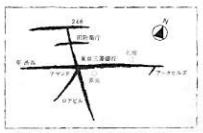
高14回 石橋 俊一

高14回卒は会報第2号・第4号に掲載の通り、従来から二年に一回のペースで首都圏在住者の同期会を開催して来ました。メンバーは八十余名、会報創刊号の表紙を桜の絵で飾ったイタリア在住の同期生、綿貫直諒画伯が開く帰朝絵画展に合せて毎回三十数名の出席を得て盛会裡に開催しています。この度、吉田節子さんや西山聆子さん等から、同期の堀勝義君の息子が六本木にお店を新増設されたのを機に、出来れば毎年やりませんかという提案を頂き、時間的に今回は有志だけのミニ同期会を平成十六年十月十八日に六本木「花麗」で開催しました。当日の出席者は次の9名でした。

(参加者名)

浦家史好 壇雅昭
 稲田(飛田)洋子 今村悦子
 倉成(蒲池)領子 西山(小柳)聆子
 浜尾(鶴)淑江 吉田(堤)節子
 石橋俊一

本庄
 港区六本木3-11-10 2F
 Tel/Fax 03-3464-3603
 営業時間 PM5:00~AM1:00
 定休日:日曜 祝日



堀さんご子息・石橋・稲田・今村・西山、浜尾・倉成・吉田・浦家・壇

後記

吉田 節子

「花麗」3号店で午後6時から。先ず石橋君の音頭でカンパイ！ 7時にローマの綿貫さんより国際電話が入り、みんな交代で綿貫さんとエールを交歓しました。(なお綿貫さんの第10回帰朝個展は平成十七年十月と決定しておりますので、東京同窓会の皆様様是非ご観賞下さいー場所は銀座松屋)

七千円会費で「花麗」オリジナルの季節の素材を生かした創作料理、ピンクやブルーの美しく美味しいカクテル。飲めない女性たちもほろ酔い加減、日頃グレルの皆さんも文句無しに舌鼓を打ち、あつという間に10時になり、デザートケーキに、お土産はお手製のパンと大満足でした。

お礼に少々「花麗」のPRを……場所はパンフ地図の通り、お隣が公園で、春には窓から爛漫の桜がすぐそば、同窓の皆さん方は非ご利用下さい。

なお、今回の東京同窓会総会では、私達高校14回卒が当番幹事となり無事終了致しました。皆々様のお力添え有難うございました。紙上を借りて御礼申し上げます。

堀勝義君からは総会へオリジナル焼酎「薫風」を提供頂きました。彼は当日はゲートボール(東京大会で優勝)東京代表で伊香保での全国大会へ出かけ、十九日の決勝戦迄勝ち進んだそうです。おめでとうございました。

高6回卒(昭和30年卒)三稜会のお知らせ

高6回 石橋 修

西暦奇数年の三月に開催しようと思いましたが、正式案内状は一月下旬に発送の予定ですが、本会報の紙面をお借りしてあらかじめお知らせいたします。

今回は三年一組の中村充君が北海道・札幌から参加される予定です。皆様お誘い合わせの上、多数ご参加いただきますよう幹事一同心からお待ち申しあげます。

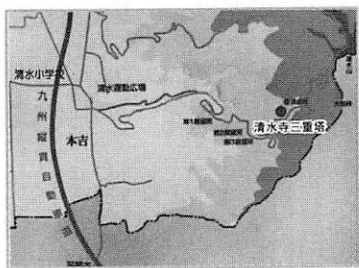
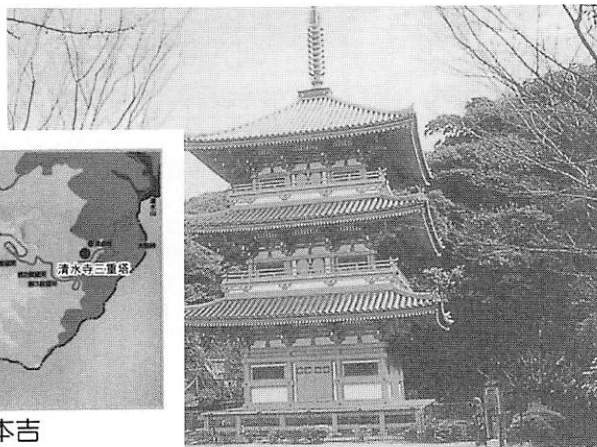
日時	平成十七年三月八日(火) 午後 五時
会場	霞が関三井クラブ (千代田区 東京倶楽部ビル三階)
会費	八千円 程度
幹事	池田勝嗣、石橋 修、 荻島直記、河口健寿郎、 服部尚子

ふるさと瓦版

広報「せたか」より
 県指定有形文化財（建造物）
 昭和30年3月5日指定

清水寺三重塔

この塔は、柳川領内住民と近国信者の寄進により、天保7年（1836）に落成したといわれています。塔は三間四方、本瓦葺です。規模は一階では中央間2・46m、脇間2・15m、総高は礎石上端から相輪（そうりん）頂まで約26・5m、軸組、軒組は各層とも同じで柱間は長押（なげし）をまわし、頭貫（かしらぬき）



大字本吉

大字本吉

でつなぎ、丈高い台輪上に一手先（ひとてさき）までは横に広がらない尾垂木（おだるき）をもつ三手先（みてさき）の和様組物をおきます。三層だけは扇垂木（おおぎだるき）にしてあります。心柱は一階天井上の梁上から立ち上がっています。各階とも四天柱内は周囲床より70〜80cm高くなっています。一階だけはこの如来を安置してあります。

戦後、白蟻の被害等により荒廃したので、昭和38年に三重塔復元奉讃会を設立し、昭和41年解体復元工事を完成しました。その後、昭和59年に瓦の修復工事が行われています。

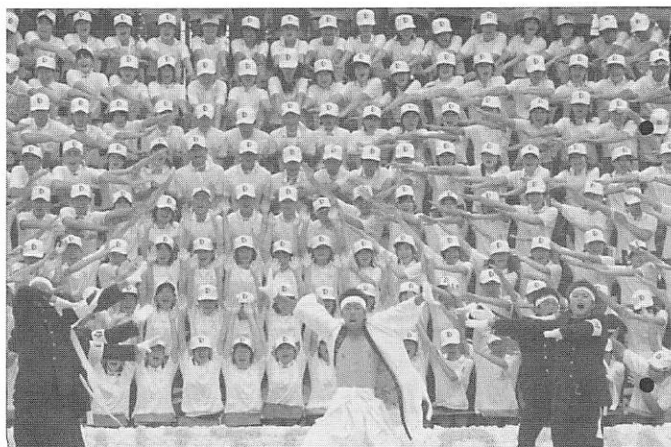
優美さと荘重さを兼ねた姿は、清水山の自然とよく調和し、すばらしい景観となっています。

市報「やながわ」より
 伝習館運動会
 さらになる高みへ挑戦！

伝習館高校大運動会

県立伝習館高校（荒木裕幸校長・753人）では6月19日、「翔」さらなる高みへ」をテーマに大運動会が開かれ、3つのブロック対抗で、綱引きや棒倒し、リレーなど20の競技が行われました。

応援コンクールでは、太鼓の音に合わせて、応援団が12分間の演舞を披露。後方の特設応援席では生徒約250人が掛け声をかけながら、カラーボードや手などを使人文字や模様をつくり、応援団と一糸乱れぬ演技を繰り広げていました。



▲応援コンクールで白ブロックの演技

広報「おおき」より

メダカとカダヤシ

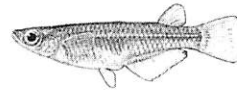
「メダカ」と「カダヤシ」、皆さんご存知ですか？「メダカ」は誰もが思い浮かぶ、なじみの深い魚ではないでしょうか。では「カダヤシ」はどうですか。初めて名前を聞いたという方も多いと思います。実は現在、大木町の堀でもメダカよりもカダヤシの方が多く見られます。

「メダカ」はメダカ科の生き物で、大きさは4センチほどです。一方「カダヤシ」はカダヤシ科の生き物で、大きさはメダカより一回り大きく5センチほどです。カダヤシの原産地は北米大陸の南東部で日本には台湾経由で移植され、メダカ特

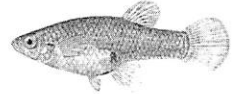
有の背中の金色の線がなく全体的に黒い魚です。

その名のとおりに、ボウフラを好んで捕食することから「蚊を絶やす」ことを目的として放流されたそうです。しかし、現実にはメダカの生息域や食性と完全に重なってしまい、メダカより大型なことで、卵胎生（卵を体内で孵化させしばらくして水中に小鱼を産み落とす）のため卵が捕食されることがないことなどの理由で『メダカ絶やし』の真つ最中だそうです。

カダヤシのように人が外国から持ち込んだ生物を典型的な外来生物とみなします。現在の日本には外来生物が多く存在し、こうした外来生物が日本に昔から生息する生き物（在来生物）を絶滅の危機に追いやっています。メダカとカダヤシの関係もそうです。皆さんの近くの堀にいるのはメダカでしょうか、カダヤシでしょうか。堀の中をのぞいてみてください。



メダカ



カダヤシ

（参考・佐賀新聞社「佐賀県の淡水魚」・滋賀県立琵琶湖博物館「外来生物連れてこられた生き物たち」）

市報「やながわ」より
伝習館

平川さんインターハイで銅メダル

伝習館高校3年生の平川英代さん（佃町）が、8月に島根県で開かれた全国高校総合体育大会（インターハイ）陸上女子走り幅跳びで、自己ベストの5m89cmを跳び、3位に入賞しました。平川さんは小学4年生のときに柳川陸上クラブに入り、走り幅跳びを始めたのは柳城中2年生のときから。昨年もインターハイに出場しましたがファールで記録なしに終わり、そのくやしさをバネにこれまで練習を重ねてきました。現在は、11月に小郡市で開かれる朝日記録会で6mを越えることを目標に練習を重ねています。「将来は大学に進み記録を伸ばしたい」と話す平川さんは、将来の夢に向かって、さらに大きくジャンプをします



市報「やながわ」より
柳川巨峰のワインを召し上げられ

有明の潮の香りもいっしょにブレンド

●柳川産巨峰使用●ロゼ／やや甘口●500ml・アルコール分14%未満●1本1000円●今年は1万2000本つくりました。市内の酒屋さんで、発売中です。
●上品でフルーティーな香り、口当たりの良いすっきりとした飲み口です。
●有明海の魚介類やうなぎのせいろ蒸しなどの料理にピッタリ。
●おいしくいただける温度は7〜9度、冷やしてお飲みください。
●ギフトに最適な「柳川巨峰のワイン」のカートンもあります。
問い合わせは、市農政課（内線271）まで。



広報「せたか」より
国指定天然記念物
大正12年3月7日指定

カササギ生息地

鴉科の鶺鴒（かささぎ）属であり、頭部から背部は黒色で光沢が強く、胸および脇などが純白色の留鳥です。留鳥とは、季節的に移動を行わず、一年中ほぼ一定の地域に住む鳥の事です。日本では有明海

北岸のみに分布しているといわれ、主として平坦な農耕地や村落付近の樹林に生息し、山岳地には生息しません。樹林が少なくなつたためか、最近では町内の電柱等に巣を営んでいるのを見かけるようです。

本鳥は元来、中国の中北部及び朝鮮半島南部に多く生息しています。その昔、豊臣秀吉の朝鮮出兵（一五九二〜一五九八年）の折に、出陣した柳河藩主立花宗茂らが捕り帰ったといわれ、別名をカチガラスまたはコウゲカラスとも呼ばれています。

この鳥が巣を営むにあたって、低い樹枝に作るときは、その年は台風がひどいと俗説があるようです。

●所在地

久留米市・柳川市・大川市・筑後市・山門郡・三潞郡・佐賀県の一部



来らしたもんね。

「そんなら、あたかも連んなお、何ば持つていきよるかい」

「ぼくとば持つて行きよるばい。綱や兵助どんの持ちこらすげな」

そこで、五、六人つんのうち、清尊寺山ん向ん方さん行つた。山ん下の方に綱ばぐりつと張つて、清さんてん、だつてん番しとらす。そすと他ん者はんは山ん上ん方から、ぼくとで松の木てん、かしの木てん、かんかんち叩ち「ほうい、ほうい」おろうじ、下さんおじつてくる。うさぎやびつくりして、下ん方さん一散走りでおじる、後ん足が長かもんじやん、鼻ちいて、くりつちひつくり返つて、コロコロして逃げまつた。

そして、綱にひかかつて、クリクリち巻かしたとこば、番しとつた者が、ぼくとでポカポカつちくらせて、打ち殺しよつた。

何時じやい、清さんの番しよらしたげなりや、良助がえん 馬んごたつとん、駆けてきたげな。

「こりやどうするじやるか」ち思とるとけ、ピーンと跳んで来て「あらっ」ち思たときや、清さんの股座ん下ば、ポーイチ逃げちいつてしまたげな。



※印の注釈

おっどまあ↓私たちは／こらい、こらい↓呼びかけ声。もしもし。／ぼくと↓天秤棒／つんのう↓連れ立つ／一散走り↓一目散に走る様子

市報「やながわ」より
阿武教子選手 凱旋報告会・9月21日

二度の挫折をのりこえて

アテネオリンピック柔道女子78kg級金メダリストの阿武教子選手が、母校である柳川高校で、凱旋報告を行いました。阿武選手は、同校出身で全日本柔道女子の吉村和郎監督と来校。吉村監督が「努力は人を裏切らない」を身上に、二度のオリンピック初戦敗退をのりこえ金メダルにつながった」と報告。阿武選手は「チャンスは必ずやってくる。人との出会いを大切に、失敗を受け入れ、そのチャンスをつかむことが大切」と後輩達へエールを送りました。



金メダルを胸に報告する阿武選手

白秋生誕百二十年記念事業

山田洋次監督 講演会

○日時 12月19日(日)、午後2時～

○会場 市民会館大ホール

○内容 講演会「柳川と映画」(午後2時～)、トークコーナー(午後3時～)、矢留小学校児童による合唱(午後3時30分～)

○入場料 無料(ただし入場整理券が必要です。整理券は、公民館や水の郷、市役所生涯学習課にあります)

問い合わせは、市生涯学習課(内線217・219)まで。

(やまだ・ようじ)

昭和6年(1931)9月、大阪府豊中市生まれ。東京大学法学部卒業後、松竹に入社。昭和44年から映画「男はつらいよ」を手がけ、平成8年まで48本のシリーズを制作。本市沖端も口ケ地になったこともある。藤沢周平原作の初の本格時代劇「たそがれ清兵衛」(平成14年)は、映画各賞を独占し、米国アカデミー賞外国作品賞にノミネートされた。父親の墓が東蒲地の崇久寺にある。



白秋かるた

県歌人会が白秋の短歌(約八千首)の中から百首を選びました。1セット1500円で、千セットを白秋生家で販売しています。

問い合わせは、白秋生家(☎73・8940)まで。

写真付き記念切手シート

切手シートの図案は、白秋のいとこで熊本県南関町の画家・石井了介氏(故人)の柳川を描いた、白秋詩歌の木版画。台紙付きの80円切手10枚セットで1500円です。千セット(限定)を、来年1月25日から白秋生家で販売します。

問い合わせは、白秋生家(☎73・8940)へ。

エコーはがき

白秋と川下りの写真を載せたハガキ、10万枚(1枚45円)を市内郵便局などで販売しています。

問い合わせは、市庶務課(内線352)まで。



藩校伝習館

江戸時代の学問は、孔子の教えを学ぶ「儒学」を中心になされてきました。その学問を藩士の子弟に教える場所は「藩校」とよばれ、江戸時代中期以降、全国で設立が相次ぎました。

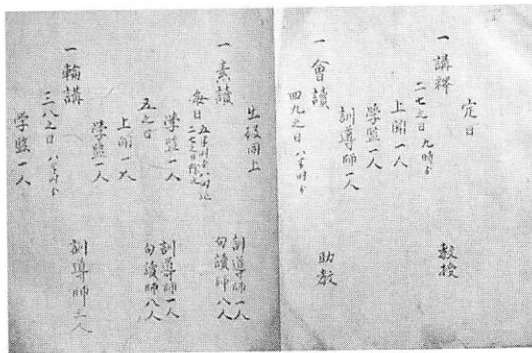
当地にて教育の中心的な役割を担ったのは、安東省菴（一六二二～一七〇一）をはじめとする安東家でした。安東家は省菴の没後、桐菴（守直）・士学斎（守経）・問菴（守官）・俣山（守身）と代を継ぎ、各々が柳河藩の学問に貢献しました。問菴の頃、自邸内に学問所を設け、藩士の子弟たちを中心とした教育が始まりましたが、藩校伝習館として成立したのは文政年間、俣山の子・節菴の頃でした。

文政八年（一八二五）正月十二日付の「伝習館規定」には当時の時間割が記されています。それによると、八時半～十四時は、ほぼ毎日漢文の素読（原文をそのまま読み下す）が行われ、その後は日替わりで教授の講釈や輪読、また古典の解釈に関する討論や漢詩文の作成、奪読（読み手が誤読することに入れ替わる）などに費やされました。

教材には、『論語』をはじめとした四書（他は『大学』『中庸』『孟子』や『易経』『詩経』『書経』『春秋』『礼記』の他、『史記』などの歴史書も使用

されました。学生は、藩主の御発駕・御着城、五節句、お盆、三柱神社などの御祭礼以外に休日はなく、学業と並行して弓馬などの武術稽古も怠ることは許されませんでした。この「文武両道」の教育方針は、明治元年（一八六八）に藩校伝習館が閉鎖されるまで堅持されていたといわれています。

市史編さん嘱託 吉田洋一



▲「伝習館規定」(部分) 安東家史料

柳川出身の演歌歌手誕生!!

北山たけしー「片道切符」北島三郎作詞・作曲で十六年四月にデビューしました。応援して下さい。

北山たけし

演歌歌手。1974年2月25日生まれ、福岡県柳川市出身。

カラオケ教室を営む父親の影響で4歳の頃から演歌を歌い始める。21歳の時に上京、北島三郎の内弟子とな

り8年間の修行期間を経て、04年4月21日にテイチクエンタテインメントから師匠・北島の作詞・作曲による「片道切符」で念願のデビュー。芸名の「北山」は、師匠・北島三郎と、兄弟子・山本譲二から一字ずつもらったもの。

太く伸びやかな歌声はもちろんのこと、端正な顔立ちに、爽やか&親近感たっぷりの笑顔、礼儀正しい態度、まっすぐで男気あふれるキャラクターが魅力。

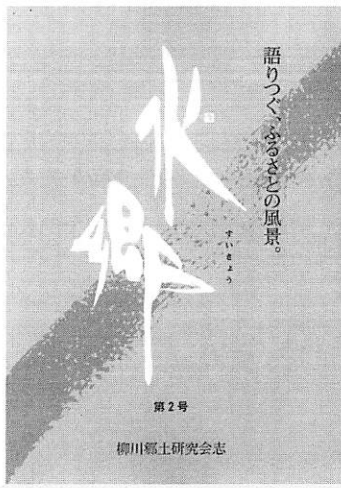


また幼い頃、北島三郎先生の歌をテレビで聴いたのが、多くの夢のはじまりでした。北山たけし

新刊紹介

○柳川郷土研究会誌

『水郷』第2号が二〇〇四年七月十七日
刊行されました。定価二、〇〇〇円



柳川郷土研究会誌 第2号
発行所 柳川郷土研究会
発行日 二〇〇四年七月十七日
発行部数 一、〇〇〇部
定価 二、〇〇〇円
送料 別記
印刷 印刷局
発行所 〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市
〒370-0001 群馬県柳川市

○成清良孝さん (中56回卒)

が監修された
『間違うと恥をかく日本語小辞典』
が(株)日本文芸社から二〇〇四年三月二十
五日発行されました。定価九百円＋税。

間違うと恥をかく
日本語小辞典
監修 成清良孝
定価 900円＋税
ISBN4-537-20262-9
C0281 ¥900E
定価 (送料300円)＋税
日本文芸社

あなたの日本語は、
大丈夫ですか？

● 正しい敬語の書き方
1 敬語の種類
2 敬語の使い方
3 敬語の注意点
4 敬語の練習問題
5 敬語の練習問題の答え
6 敬語の練習問題の答え
7 敬語の練習問題の答え
8 敬語の練習問題の答え
9 敬語の練習問題の答え
10 敬語の練習問題の答え
11 敬語の練習問題の答え
12 敬語の練習問題の答え
13 敬語の練習問題の答え
14 敬語の練習問題の答え
15 敬語の練習問題の答え
16 敬語の練習問題の答え
17 敬語の練習問題の答え
18 敬語の練習問題の答え
19 敬語の練習問題の答え
20 敬語の練習問題の答え
21 敬語の練習問題の答え
22 敬語の練習問題の答え
23 敬語の練習問題の答え
24 敬語の練習問題の答え
25 敬語の練習問題の答え
26 敬語の練習問題の答え
27 敬語の練習問題の答え
28 敬語の練習問題の答え
29 敬語の練習問題の答え
30 敬語の練習問題の答え

○我等が立花藩のお姫様、
立花文子さんの自伝

『なんとかなるわよ』が海鳥社から二〇
〇四年六月二十五日刊行されました。定
価二千円＋税。著者文子さんは本年九十
四歳なお矍鑠として三男三女、孫十五人、
曾孫十人に囲まれ、ご活躍中です。
戦後の「お花」の変遷イコール柳川の
変遷も興味津々です。

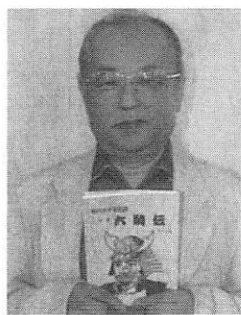
お花さんとして女将へ立花文子自伝
なんとかなるわよ
強靱でしなやかに生きる。
柳川立花自由家の一人娘として生れ、
今も日本キヤンピオンに輝き、
三男三女を育て……
戦後を「お花」の女将として
逞しく時代を生き抜いた
最後のお姫さまが語る
明治、大正、昭和、平成。
海鳥社定価(本体 2000円＋税)

ISBN4-87415-476-4
CD095 ¥2000E
定価 (送料2000円＋税)
海鳥社
ISBN4-87415-476-4
CD095 ¥2000E
定価 (送料2000円＋税)
海鳥社

柳川市報「やながわ」より

○柳川の平家伝説

小説「六騎伝」出版
柳川に伝わる平家の落人「六騎」を描
いた小説「六騎伝」が出版されました。
この小説は、黒田道闊^{みちひろ}さん (大牟田
市・68歳) が文献などを基に執筆し自費
出版したものです。「観光振興に役立て
ば」と黒田さん。
市内の書店などで、1部1000円で
販売しています。



○柳川ゆかりの作家檀一雄の息女で女優
の檀ふみさん著『どうもいたしません』
が二〇〇四年八月二五日幻冬社から発行
されました。定価一、四〇〇＋税。

どうも
いたしません
檀ふみ
愛ニモマケズ
加齢ニモマケズ
笑エルヒトニ
私ハナリタイ
ISBN4-400-00000-0
定価 1,400円＋税

昭和ひとけた生まれの 戦中記

柳河が震駭した日

高2回 堤 陽太郎

さながら水に浮いた灰色の柩であるべき柳河が、その柩のふたを持ち上げて死者がよみがえるほどの大さわぎがあった。

それは、昭和二十年の真夏の事。緑濃い楠の大樹に焦げついていた南国の太陽の暑さも夕方となると、一転してよんだ空気に蚊の群れがうんざりするような合唱を始めていた。破れ蚊帳に団扇を振りふり入るには早すぎる時間だった。

その頃は敵機来襲のたび毎に鳴り響いた近くの役場のサイレンだったが、今日は何を間違ったのか夕方からうなり始めていた。それも警戒警報から本物の空襲警報に変っていた。昭和二十年の夏頃ともなるとすでに近くの都市は皆焼夷弾か爆弾にやられていて、そろそろ柳河の番かと順を待っている銃後の妻とか乙、丙種の産業戦士も多かった。

しかし、よく考えてみると柳河あたりが爆撃されると思っていたこと自体が極めてたいのか子供っぽいのかいずれかであるう——ただ、日本人の大人も真剣に考えていた事でもあるので——遠い昔の感情をしらべるすべはない。とにかく空襲警報の手順を踏むことになる。

娯楽もない毎日。芋蔓と団子汁の毎日。戦時下ながら不謹慎に夜の爆弾ほど面白いものはないとおもっていた。博多が夜襲された時は大屋根を踏み外す位に急い

でかけ上って、鬼瓦を把んでるか北の夜空に光る花火の競演のような爆弾をただうつとりとあかずながめていた。音はしなかったが夜空にシルエットを描く曳光弾、つづいてあかあかと燃え上る光景は戦争というよりか、向うの一大ページメントであり大火事であった。まだ見ぬ博多はこのようにして消えてしまった。

しかし、今日の爆弾はおかしい。大屋根から見るとすぐ西の方である。博多の時は近くの屋根までは明かりで浮き上がるようなことはなかったが、今日のは弾が落ちるたびにくつきりと浮び上る。いや、煙すら見える。これは近いと直感する。

——柳河など焼けて伝習館も消え去ればよい——ついでに重箱先生のチョーク箱も鬼畜米英の略奪品になればよい——と一瞬の虚無的嗜虐趣味を味わう。

下の道路を見ると、何と、大八車を引いた人、もんぺに頭巾、家財道具を肩にかついだ人が走り始める。長柄小路は一瞬にして応天門の大火の折の朱雀大路と化していた。

皆、南へ南へと一定の方向を指して逃げていく。狭い長柄町が人と車で埋まったのは開闢以来のことであろう（勿論、戦後すぐ元役場が失火で燃えた時は野次馬で東魚屋町から南長柄町まで埋まったことがある）。

「早よう前サン往かんカ」

「動かれんじヤッカ」

近隣の人がびっくりして通行人に聞くこと、

「高畑の三柱神社で火事の焼けヨル」

「エツ。嘘事。爆撃は西の方バイ」
皆パニックである。とにかく南長柄小路—細工町—新町—今古賀を抜けて一路塩塚の方へ行く人の群れである。

大屋根観測所から見限り柳河に弾が落ちた形跡はないが火が近くにあることはたしかである。母から屋根から降りるように怒鳴られ、しぶしぶ学用品をとりまとめ退出準備だけする。古新聞二、三枚折りたたんだような教科書とノート二、三冊がすべてである。

「どっちみち逃げヤンバイ」

「逃げる事はナカ」

「柳河に落ちるコツはナカ。落ちたらシヤツチ消さヤコテ」
「逃げたら家も何もかも焼けてのうなるバイ」

どっちの判断が正しいかは分らぬが我が家は逃げるあてもないので踏み止まらざるを得なかった。

「からたちは畑の垣根よ」

いつもいつも通る道だよ』
とうたわれた土橋に通ずる由緒ある唐橋の垣根はふみつぶされ、からたちを愛さない人達の避難路となってしまうた。

その内避難民のだけかが

「諸富バイ、若津の向う岸タイ」

と叫んだ。

それにしても不思議なのは、諸富なら省線の柳河からの道、即ち保加町、辻町からの道が遮断されているのであって、国道橋から下百丁、三橋へはシルクロードのように開けているはずである。第三の道は、国道橋から川添いに今古賀に抜けることはできる。おそらく三橋に逃げることを思いつかずに高畑に押しかけて

避難しようとした人達で混雑して逆流した群衆が細工町を抜け何とはなしに長柄小路に迷い込んだのであろう。

翌日からまた、リヤカーと大八の行列が諸富まで続いたそうである。聞くところによるとアルコール工場が焼けて、原料の砂糖がもろとも焼けたらしい。その砂糖倉庫に群がる蟻のようにスコップで掘りおこし吠わいに入れて積んで帰ったという話である。

焼け火の中、エチルアルコールの鬼火のような青ざめた焰の下で溶けて飴のようになった砂糖。真黒になったやけぼつきの材木をはねのけ焦熱地獄の中を砂糖恋しさに必死に掘って吠わいに入れている人々の執念を恐ろしいとも思い、またその手際よさをうらやましくも思った。二里の道のりをリヤカーを曳いていく一念もしかり、持ち帰って炭化した砂糖水を薄暗い土間ですすり、そのはかない甘さを一家眷族けんぞくで分ち合った気持ちはどうだったろうか。芋飴の甘さでは到底味わえない蔗糖せんとうの甘さ、たとえ盗泉の水といわれて甘き飢えを満たすにそのそしりを甘んじて受けた夏だっただろう。

つい先達つての話であるが『味の素』の人と話をしていると諸富に工場があるという。ひよつとするとひよつとすると思い聞いてみると「たしか戦時中はアルコール工場だったようだ」との答であった。しらべてみるとこの頃は日本化学工業となっていて軍需会社の指定を受け主に海軍関係のアルコール燃料の生産をしていたが終戦と同時に中止したとのこ

とである。

「いやー、そうですか。私も味の素の入社試験に昭和三十年に不合格でがっかりしていた時があるのですよ。万一合格して諸富工場勤務だったらすぐ地下一メートル位を掘り返して戦時下の甘き飢饉を救ったあかしとして宝物として柳河の三柱神社に奉納していたでしょうに。」

それにしても—今は昔。

三柱神社はあの時と同じたたずまいで静まり返っているであろう。夏は池にウォーターヒアシンスを浮かべ、三々五々と散策する恋人か旅人かが社殿の前で古き時代をなつかしんでいるかもしれない。ノスカイヤの前でいつくるともなき川下りの舟をまちわびているかもしれない。二度と再び戦争がないのと同じように二度と再びこのような真夏の夜の震駭は柳河にはこないであろう。

伝習館爆弾投下

高2回 武本久子

時は昭和二十年八月中旬、終戦の数日前と思います。

当時私は辻町に住んでいて、父は戦地、母と二人の生活でした。私は数分前まで表にいましたが、用事で裏に行った時、何げなく見上げた遠い空に空襲警報も出てないのに、あの銀色の飛行機が二機飛

んでいて後尾から爆弾がパラパラと落ちてくるのが目に入りました。吃驚して母に知らせたその瞬間、ドン、ジャラジャラ。

何があったかと急いで表に出てみると、表のガラスは粉々。隣の川島さん、原田糸店、前の大内さんに昭和堂、どの家もガラスが皆割れていました。一瞬の出来事に何が何やらさっぱりわかりませんでした。

その内、町内会長さんがメガホンを手に大声で、

「伝習館に爆弾投下」
と走り去られたが、暫くは誰も信じないようでした。私は裏に行っていたので怪我也せず胸をなでおろしました。

数分後近所の人達が伝習館へと行列です。私も恐いもの見たさに付いて行つたところ、まだ暖かい雀が沢山死んで落ちていました。プールで泳いでいた人達が重傷とか、人々の話をどこ迄信じてよいかわかりませんでした。今の運動場の一隅

にあった家の壁を、爆弾の破片がジグザグに穴をあけていた。それを見て足がすくみました。

すぐ女学校に見に行つた所、北側の校舎の窓ガラスは皆爆風で割れていました。こんな近くに爆弾が投下されるようになったらと恐ろしくなりました。夜おそくまで町内の人々、親類の方で表のガラス戸に板を打って頂き、母と床に付きましたが恐くて眠れず、長い一夜でした。

もう戦争は沢山、今のような生活が出来るとは当時思っても見ませんでした。

塩川の春秋

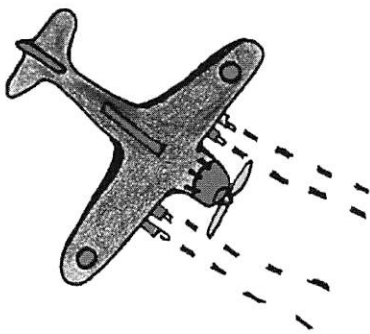
「昭和廿年〇月〇日」

高2回 石崎知見

その日は真夏の太陽が燦々と照りつける暑い日だった。潮の具合から言えば少し早過ぎたがカボチャの昼ごはんもそこそこに、いつものように赤い六尺ベコで股グラを形よく、きりりとかくして袋網たたびと桶をかかえて塩川土居へ飛び出していた。

大東亜戦争は日増しに激しさを加え、私の家のオンボロラジオは毎日のように「西部軍管区情報、敵B29編隊……」で始まる空襲警報のニュースを甲高く流していたが、私の日課の蝦むすくいはまだ、しぶとく続いていたのである。

潮待ちをしながらムツゴロに泥を投げつけて遊んでいると、染物屋の三太



オッチちゃんがやって来た。彼も蝦すくいの常連で私のより倍ぐらい大きい袋網がご自慢であった。

私と三太ンオッチちゃんは先ず二人で袋網を並べ流れを下って来る蝦を捕る、いわゆる待ち網からはじめることにした。

「お寺ン息子が毎日蝦バとりよつたら罰被りやせんカンモ」

「ンニヤ、仏さんナそげんコツは言いならんバンモ、ヨカヨカ」

等と他愛ない会話を交わしている塩川の二人には戦争のことを忘れた平和なひと時であった。

その時、飛行機の爆音が聞えて来た。

西方寺さんの屋根の方から低空で私たちの真上へ飛んで来た。飛行機は私たちの上空をゆっくりと左へ旋回しはじめた。私と三太ンオッチちゃんは、あまり突然の事で、口をぽかんとあけたまま、まだ袋網を並べて待ち網を続けていた。

大きな二本胴の機体が夏の青空にまぶしく光って綺麗に見えた。それはまぎれもなく敵機ロッキードP38であった。兄貴の雑誌でロッキードP38の二本胴体はおなじみであった。写真で見ると素敵な戦闘機で、しばし敵機であることを忘れて見上げていた。

左旋回した敵機は出の橋から沖の端方面へ飛んで行くように見えた。機影が葦の影にかくれて見えなくなった次の瞬間「ドーン」という、大きな音がして、伝習館の角に黒煙りが上った。

「ホー、ぞうたんのゴツ、ホー、ぞうたんのゴツ」

と三太ンオッチちゃんが腰が抜けたような

かつこうで這いながら葦の茂みへ逃げだした。

「おっちゃん、そっちは矢ヶ部バンモ、反対じゃるが」

空襲警報のサイレンが気違いのように鳴っていた。

虫干しのために運動場に出してあった、運動会のハイライト戦闘場面でも毎年使う張りの戦車を本物と間違えて小型爆弾を吾が神聖なる母校伝習館へ落したのである。正にケシカランP38であった。今でも「田中角栄」「ロッキード」……と連想すると当時のことを思い出すのである。

年に一、二度柳川に帰省することがあるが、塩川土居の散策が楽しみである。それも朝昼晩、三回と飽くことがない。塩川には少年時代の私の思い出がいっぱいつまっているからである。

人道雲？

高2回 小野善睦

「オイ！ おかしか人道雲ン出とつぞ」突然誰かが叫んだ。

場所は校舎の北西のはずれ、幾多の名選手を、そして伝統の水泳部を育くんだ伝習館のプールの一隅。

時は昭和二十年八月九日のことである。

伝習館時代の夏休みは、カンカン照り

の太陽と青空と人道雲と水と泳ぎと魚とそしてふんどしと一日たりとも縁の切れない日々であった――

誰と――近所の悪童とか、同級生とか、何故そこにしたのか――全く記憶にない。

ただ毎日どこかで泳がないと一日が暮れなかつた夏であったのは確かであり、たまたまその日は趣を変えて瑞松院の方から堀を渡りプールに潜入したのである。プールの南西の隅、こわれかけた小屋の横から見ると確かに変な人道雲が――

いや、どう見ても人道雲とは見えない雲が、それも一つだけ真つ直ぐに上空に向ってムクムクムクムクと見るまに大きくなって行く。最初はドス黒かったのが中央部からどんだん赤や黄やオレンジがあらわれたり消えたり、陽光にキラキラと美しく輝いたり、また不気味な褐色やドス黒く濁った灰色が出て来たりすごい勢いで変色しながら大きくなって行く。何とも奇怪な色と形で、風も音もない静寂の中で色と形だけが急激に変化し、大きくくなっていく。それは今までに全く見たことのない不思議な光景であった。

誰言うとなく「帰ろう、帰ろう」と一目散に帰ったが、後で「長崎にも新型爆弾が投下され、市民は消火に奮闘中」とのニュースを聞き、その後あの奇怪な雲の下で人類初めてのそして最大の悲劇が繰りひろげられていたことがわかった次第である。戦後度々映画やテレビでお目にかかる「きのこ雲」との出会いであった。

ただそれだけのことであるが、戦争下とはいえ、遊びほうけていた伝習館時代

の夏休み――青空と人道雲との楽しい思春期の思い出の中にふつとあの「きのこ雲」の影がよぎり、一点の黒い汚点を見る思いがする。

今でも、あの母校のプールのかたわらに立てばはつきりと「この方向」を指させる程の鮮烈な記憶が残っている。

――もうあの場所にプールはないかも知れないが。

「故郷やそのかの子ら、皆老いて遠きに何ぞ寄る童心」

「あのころ」

高2回 吉川良平

中学一年の一学期もやがて夏休みに入った。割合登校日が多く、八月九日長崎に原爆が落ちた日も登校日で、校庭に整列中異常な振動のあと暗紫色の雲が西南の空に広がり、これはただ事ではないぞという気がしていた。

それから三日ほど後の事である。当時小生は校庭の裏門のところに住んでおり、いつものように午後は禪ぜんじ一つで伝習館のプールに泳ぎに出かけた。まもなくガッツが現れ「河童全員上れ」の号令がかかり、あの鋭い目付きのガッツが幾分申訳なさそうな顔で、倉庫の清掃作業に全員手伝うよう申渡された。当時弓道場の隣に昔寄宿生の食堂であった建物があり、作業用具の倉庫として使われていたが、作業はこの倉庫の清掃作業で、当

日館長まで出て、このような作業をなぜしなければならなかったのか遂に解せな
いままである。

倉庫内の用具を外に持出した頃、上空
を例の双胴体のロッキード爆撃機が編体
を組んで北上し警戒警報のサイレンが鳴
りわたった。数日前学徒動員で大牟田地
区に勤務していた先輩等が追撃で十数名
死傷し、教職員初めシヨックの大きい時
であったが、丁度その時菊池さん（歴史
担任）他一名の先生が入院中の重傷者の
報告に現れ、帝釈天こと館長先生も悲痛
な情況の報告を無言で聞いていた。

やが太刀洗方面ではなかったか、爆撃
の地響きや高射砲の音が轟き、空襲警報
のサイレンが鳴りだした。作業は中断し
倉庫内に潜んでいると上空を通過する敵
機の爆音がした。この時、^{一ツ}一つの全身
を引き裂くような爆風と、頭を殴られ鼓
膜が破れたようなシヨックに襲われ、飛
び散る窓ガラスと共にコンクリートの床
に突き伏せた。

三途の川を渡ったのか渡らなかつたの
か定かでない瞬間が過ぎ思考が返ってき
た。つい先程菊池さんの報告で某君は、
大牟田爆撃の一発目の時は二上^{にやが}って飛び
廻っていたが、二発目で重傷を受けた話
をしていたのが頭にあり動いてはいけな
いと体を堅くしていると、後日有名にな
った古賀寛チャンのドラマチックな「館
長先生ヤラレマシタ天皇陛下下バンザ
イ！」の呻き声に、皆われにかえり、顔
は上げるが誰も立ち上がらうとしない。
その頃、弓道場側で負傷者が出たらしく
ザワメキが起こり人が動き始めた。負傷

者は三年生の吉田さんで、左肩を破片が
貫通し、血が滴たり青ざめた顔で抱上げ
られている。

小生は同じ町内のため吉田家に連絡に
走ることになった。我家は爆風で壁は落
ち、障子も襖も棧は飛び、畳は吹き上げ
られて見るも無惨な姿になっている。然
し衣服をつけるため中に入ると家族はキ
ョトンとした顔で被爆の恐怖からあまり
反応がない。柳河藩家老職の吉田家に飛
び込み事の次第を伝えた。

爆弾が投下された場所は当時のグラン
ド中央よりやや南西よりテニスコート脇
で、あの頃伝習館の運動会のフィナーレ
は教練の発表を兼ねた白兵戦であった
が、この時使うリヤカー引きの木製戦車
が二台倉庫内にあり、これを持出して
いたのが被爆の原因ではないかと思われ
る。

よく戦記ものなどで、もし桶狭間で織
田信長が負けていたらとか、ミッドウェ
イで偵察機の故障がなく一時間早く敵を
発見していたらという仮説で歴史が語ら
れることがある。この時もしもう一廻り
大きい爆弾が投下されていたら、あるい
は爆弾が伝習館の南側から投下されず北
側から投下されていたら、館長教職員を
含め相当な犠牲者を出し、伝習館史に最
も暗い一頁を残すことになっていたであ
らう。

—以上5編・高2回卒業三十周年記念誌
『橘蔭後あり』より転載—

戦中あれこれの記

高2 小野 善睦

『帝国陸海軍ハ今暁未明南太平洋上ニオ
イテ米英軍ト戦闘状態ニ入レリ』
ソノ朝の朝礼台の校長さんの引きつった
顔を見ると、話を聞く前からナンカよう
わからんバツテン、オオゴツの起こった
ゴタルチ思い。

ソリカラは、体操の時間チュウト、柔道
や剣道の特訓バツカシ。

祇園さんの神前では近所のオッチャンや
アンチャンの出征バ、万歳！万歳！と見
送り、すみの方で涙をこらえているオバ
シヤンに胸を痛め、千人針バ、ハヨ、イ
ッペ縫うてあげて、慰問袋バどんどん送
ってやらんといかんバンモ、チ言うて回
り。

毎月八日には奉安殿からうやうやくしく持
ち出され、校長さんの白手袋バして、嚴
かに代読シメス「朕」の思われた言の葉
を拝聴し、ケンケンフクヨウすることを
誓う。

つぎには、忠魂碑の前で「無言の帰還」
バされた英霊に黙禱を捧げ、遺骨を抱い
たオバシヤンの美しかあと思いオイテキ
ナカねえと思う。

ソリバツテン。

子供らには楽しかコツもいっばいの
日々。正月にはヨソユキベンベン着て、
ヨカラカオンゴにヨカジョンジョンにな
り、凧上げをし、独楽を回し、羽根をつ
き、百人一首のカルタとり、ホンゲンギ
ヨで焼いた餅バ、オットリグッチョし、
ラムネン玉やバチに宿題を忘れる。

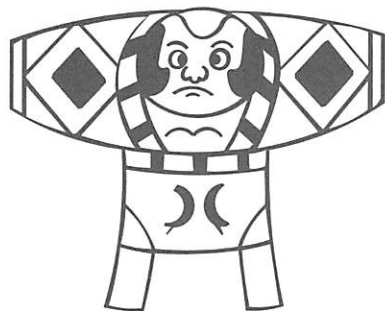
雛祭りには甘酒に酔い、オナゴン子はみ
なベツピンさんに見え、

花祭りには小さなお釈迦さんの「天上天
下唯我独尊」の像に甘茶ソブを注ぎ、

端午の節句にはチマキを食べ、菖蒲湯に
浸かり、

七夕祭りの短冊に幼い夢を託し、

精霊流しで夜の川面に燃える藁舟に歓声
を上げてご先祖様を偲び、



秋の彼岸ごもりには曼珠沙華に囲まれて、オゴツツアンバ、オゴジョとジョンジョンとオモエーで食べ、

エーギョウエーサツには「エーギョウエーサツカカセメセ！ナーカンヨカゴツカカセメセ！」と近所中を声張り上げて一軒一軒訪ね歩き、あずきご飯と人參大根のなますで満腹し「〇〇シヤンゲーンとが一番美味しかったバイ、ンニヤ、△△シヤンゲーの方が一番タイ」と下らん討論会を開き、

オニギエにはなけなしの小遣いを大道詰将棋で巻き上げられ、ヨサリ中ドロツクドンの後バツいてサルキ、

今古賀のドンドンキャンキャンのダゴ狐に追いかけられ、チンチロマイで逃げる。

〇〇陥落、××占領チュウて旗行列や提灯行列で歩き疲れ、ラムネやサイダーの美味かったコツの忘れられんタンモ。

カタイツポウでは、中学伝習館や柳河高女を目指して補習授業バ受け、懸垂バ3回以上デケン奴は不合格になるゲナチュウテ、一生懸命練習し、ヨヨ合格したコツアしたバツテン。

張り切つて伝習館に登校スツトに、ゲートルをきちんと巻きキランでズリ落ちてシヨンナカ。ゲートルもズボンもペラペラヤイケン、難シカア。

フノ悪カコツ、ゲートルのズンダレトツトバ上級生に見つかつて、おまけに拳手

の礼もセンヤツタ、全くタルンドルチュウテ、往來で往復ビンタを食らい、女学校の運動会に姉の弁当バ届け、又々軟弱ジャーと配属將校に往復ビンタを喰らう。

殴られるバツカシで、勉強チャイツチョンデケン。

上級生は工場動員で油にまみれて汗を流し、大牟田上空襲で学友をやられて涙を流す。

下級生は農家のコンノガセに動員され、銀シャリによだれを流し、どじょう汁の太カどじょうにオウジョウシ、

ジュツノーナツテ、米英撃滅！とオラプ。ソノウチ、段々甘カモンはおろか、食うモンもノーナツテ、虫歯もノーナツタ。

塩川では海老や鰻やハゼクチを追い廻し、堀ではヒツシヤンオーや蓮の実を狙い、ゼーゴンバブに追い回され、

お寺の柿の実やザボンを襲つては小僧坊主に追いかけられ、運動会の時よりも早くダダバシリで逃げ、罰カブツテ、コエタゴにアユル。クサカッタモナンモ！

B29は我が物顔で入道雲をぬつて飛び、コン畜生チ思うバツテン、ドンコンシヨンナカ、サイレンの鳴る度に、防空壕に入ったり出たり、電灯を点けたり消したり、ホンニセカラシカア。

オバシヤン達ア、防空頭巾バ被り、モンペ姿も凜々しく、

号令に従つて、ルーズベルトやチャーチルの似顔絵を描いた宙つりの板切れに、交代でキナゴエは張り上げ、バケツの水をブツカケ、ストレスを解消し、

兵隊に行きソコネタ、オッチヤン達は、竹槍バ持つて藁人形に向かい、ドゲダツカ声バ張り上げて突貫し、突き刺して、うつぶんを晴らす。

空から降つてきた敵機の撒いた宣伝ビラの日本列島バ跨いで握手しているアメリカ人とロシア人のマンガに見ほれて、何枚も拾うた子は「ソゲンカコツスツトハ、スパイのするコツ」チュウテ、警防団の大人にバサラカオゴラレ、折角大事にトットトバ取り上げられ、

運動会用のハリボテの戦車に二本胴のロツキード戦闘機が爆弾バ落とし、弾片に傷つて、血のジョウジョウ出た学友は、タマガツテ「校長先生ヤラれました。天皇陛下バンザイ」とオランで失神し、

長崎のきのこ雲を望見した子はエタイの知レン色や形にオゾロゲダツテ、エスカエスカ！チ飛んで帰り、何故か早々に蚊帳を吊つて布団にもぐり込む。

とうとう、ワシワシの声のバサラカヤカマシカ夏のある日に、

これまたピーピーガーと雑音の入つてヤカマシカラジオで、

『シノビガタキヲシノビ、タエガタキエヲタエ』

と聴き「どうやら戦争ニヤ負けたゴタル」チュウことになった。

—以上1編・高2回同期会誌「東京星座」より転載—

終

募集中！

1. 表紙絵・表紙用写真
 2. 原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ
- テーマ—自由（同窓会報にふさわしいもの）
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・絵手紙、書など
- 字数制限なし（極力四〇〇字詰め（20×20）原稿用紙使用）
写真・絵・カット添付可
- 表題・投稿者氏名・卒業年度・総字数を書いて下さい。

—原稿送付先—

〒344-0032

春日部市備後東8-8-32

伝習館東京同窓会 小野 善睦 行

☎・FAX 048-735-2431

広告募集

チラシ広告

対象Ⅱ東京同窓会会員向けに製品・商品営業内容をPR、販売したい方。

○チラシ三千部を作成し（フォーム自由）事務局宛（裏表紙参照）送付下さい。会員への会報送付時に同封郵送します。

○広告代金Ⅱ一件につき弐万円を賛助金として頂きます。

会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

編集後記

○今号は郷土のトビックスを「ふるさと瓦版」でお知らせしてみた。みづま介は柳川弁と大いに違うこと、大川弁に近いことを発見した。三潞町は久留米市と合併が予定されている由、言葉の上では久留米弁とも近いのかも知れない。

○「昭和ひとけた生まれの戦中記」は伝習館在学中にこんな異状な体験をした生徒たちが居たことを後輩へ伝えておきたいと……。既に死語になりつつある千人針、慰問袋、奉安殿、防空頭巾、等々、戦時下のいやな言葉であるが、二度とこういう言葉が使われることがない様にしたいいものである。若い後輩たち意味のわからない言葉は老先輩に聞いてハイヨ。

○会員の方々がもつと興味をもつて頂くような会報作りについてのご提案アドバイスも頂きたく思います。

○現在の編集委員は次の通りです。

小野 善睦（高2）

内山 秀生（高10）

永倉（跡部）素子（高10）

江崎 正直（高2）

松永 肅（高5）

原田（立花）万紗子（高13）

発行責任者 江崎正直

〒156-0043

東京都世田谷区松原3-39-25-801

なんでだろう？何でだろう？

○東京同窓会総会への出欠の回答が四人に一人しか来ない。

何でだろう？何でだろう？

幹事会でも皆さんに理由を推論しても

らったが。判らない？

・案内状の発送方法が悪かった？

・会報に同封したのが悪かった？

・今では回答を出さないのは失礼ではな

くなっている？（勝手に送りつけて来

たものに一々回答する必要はないので

は……というのが現代の常識なのか

な？）

・いやしくも伝習館の卒業生はそんな

ことはないだろう？

・昨年十月の新聞記事によると某宅配業

者が依頼された配達物を千三百個も配

達しないで放置していたと……今回の

会報も全部は届かなかったのか？

事務局では色々と反省し原因探求中。会

員の皆様のご意見をお寄せ下さい。

お詫びして訂正します。

—前号第4号6頁

高校3回卒田中穂積さんは高校17回卒

の誤りでした。

同姓同名でした。



伝習館東京同窓会事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込3丁目3-19 千鳥屋方
TEL 03(3915)0865 FAX 03(3918)8139
<http://www.asahi-net.or.jp/~dv4h-fior/densyukan.html>